

水都東京の新たな展開 —歴史から学ぶ未来への提案—

法政大学 陣内秀信



撮影：恩田重直



原点としてのヴェネツィア



寛永20年（1643）頃の江戸 「寛永江戸全図」（白杵市教育委員会所蔵）より



水の側からのフィールド調査
（陣内研究室1980年～）

再発見と再評価

法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
Laboratory of Regional Design with Ecology, Graduate School of Hosei University

CONCEPT

「環境の時代」を切り開く真の「都市と地域の再生」のための方法を研究することが、この研究所の目的です。とくに、長い歴史のなかで豊かな環境を育みながら、20世紀の「負の遺産」におとしめられた水辺空間を再生し、21世紀の都市・地域づくりの大きな柱にすることを目指しています。

環境のバランスと文化的アイデンティティを失った日本の都市や地域を持続可能で個性豊かに蘇らせるために、<エコロジー>と<歴史>を結びつける独自のアプローチをとるに、この研究所の大きな特徴があります。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、そして日本の専門家が国際的なネットワークを形成し、西と東の知恵を交流させながら、多角的な理念と手法を探求することにより、問題解決に取り組みます。

世界のみなから注目を集める東京を重要な研究対象とすることも、この研究所のもう一つの特徴です。他の国、地域の都市と比較しながら、東京の水辺空間のあり方を深く研究し、その再生のための具体的な方法を積極的に提言していきます。

The purpose of our research center is to study methods for true "revitalization of cities and regions", to open up the era of environment. In particular, we set our sights on regeneration of waterfront spaces, unfortunately labeled as a negative legacy of 20th century, despite their long history of fostering rich environments; we regard them as an important pillar for urban and regional planning in the 21st century.

We adopt unique approach to connect "ecology" and "history" for the sake of distinctive and sustainable revitalization of each region or city in Japan which has lost environmental balance and cultural identity.


Based on the international network among specialists from Europe, United States, Asia and Japan, we search for solutions to various problems through multidirectional concepts and methods, promoting interactions between western and eastern wisdoms.

As a major subject of research, we select Tokyo, a city that came to international attention. Comparing with cities in various countries or other cities in Japan, we will deepen our understanding of waterfront spaces in Tokyo, to propose concrete ways for their regeneration.

2003年 エコ研誕生

文部科学省 学術フロンティア推進事業

法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
Laboratory of Regional Design with Ecology, Graduate School of Hosei University




21世紀の地域デザイン

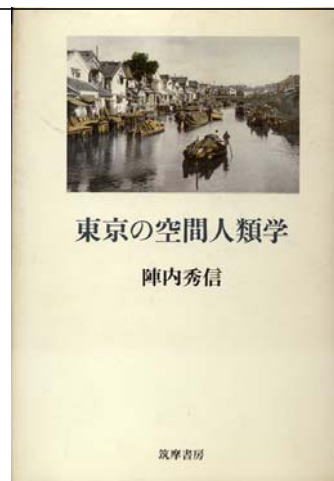
- ・歴史とエコロジーの視点から
- ・東と西の知を融合し
- ・水の都市を柱に
- ・学際的に

法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
Laboratory of Regional Design with Ecology, Graduate School of Hosei University

〒184-8584 東京都小金井市橋野町 3-7-2
 e-mail eco-history@k.hosei.ac.jp
 URL http://www.eco-history.com



c.1990



1985年



江戸東京はエコシティだった

都市のグランドデザインは地形・自然条件に依拠していた

山の手= 田園都市

下町=水の都

c.1850



オーソドックスな東京＝水都論

「東京エコシティ
——新たなる水の都市へ」展
 Urban Ecology - Tokyo Water City

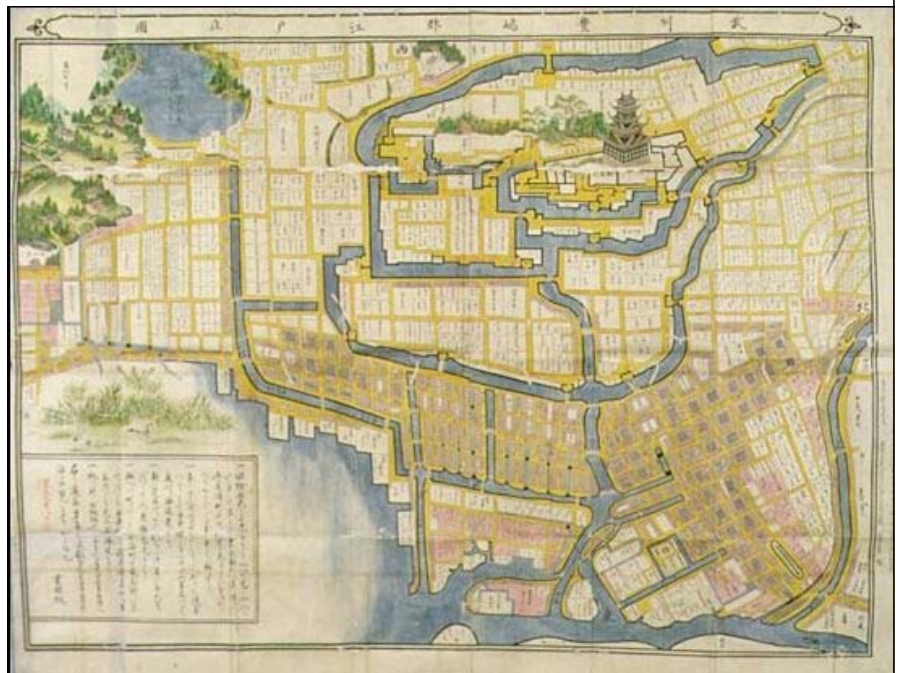
会期：2006年1月27日(金)～3月5日(日)
 開館時間：9:30～17:30(木・金曜日は20:00まで)
 入館は開館の30分前まで。ただし、休館日は毎週月曜日
 会場：江戸東京博物館 常設展示第5階 第2企画展示室(常設展観覧料で入館いただけます)
 主催：東京都江戸東京博物館
 共催：法政大学大学院エコ地域デザイン研究所/東京キャナル・プロジェクト実行委員会
 協賛：株式会社大塚商会/株式会社サムソン/株式会社中工務研/東亜建設工業株式会社/東京ガス株式会社/
 株式会社日建設計/株式会社日建設計シビル/三協工業株式会社/三井不動産株式会社/三菱地所株式会社 (株+有)
 後援：/千代田区/中央区/独立行政法人都市再生機構/社団法人日本建築学会/
 社団法人土木学会/社団法人日本都市計画学会/NPO法人大丸有エリアマネジメント協会

《来館のご案内》
 ●3丸線武蔵/四国駅西口下車徒歩3分
 ●都営地下鉄大江戸線/四国(江戸東京博物館前)駅下車A4出口徒歩1分
 ●都バス/番38・番27・番28・門33系統「都営四国駅前」下車徒歩3分
 <問い合わせ> TEL 03-3626-9974
<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

江戸東京博物館

江戸東京

都市建設の最初から
 水の都市の性格をもつ



「武州豊嶋郡江戸庄図」1632年(国立国会図書館)

江戸東京 水の都市 洪水から守りながら水に親しむ都市を育んだ



「江戸名所図屏風」(部分) 出光美術館蔵 1630年頃

水：様々な形態、機能・活動、意味

飲料水、農業、漁業、舟運・商業活動、生産、宗教・儀礼・祭礼、レクリエーション
演劇、観光、アメニティ、風景 等

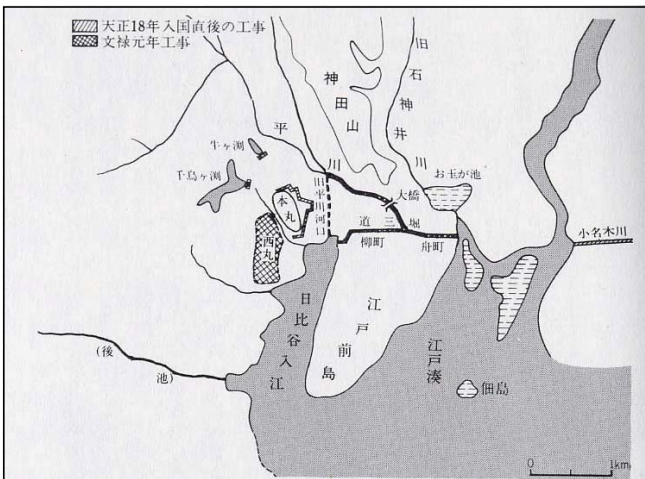


図21 徳川期最初の水路工事 平川と旧石神井河口から江戸城直下まで舟が入れるように計画された道三堀。関東最大の製塩地行徳から、塩を江戸に直送するために設定したもの。城の整備は後にして、家康の視角は広域だった。また城回りにはダムをつくり、牛ヶ淵・千鳥ヶ淵の2つの上水源を確保している。

鈴木理生『江戸の川・東京の川』1978年 より

江戸東京の水都研究の出発点

鈴木理生氏の研究

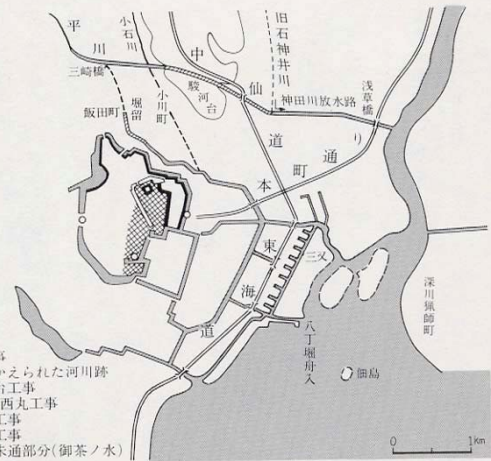
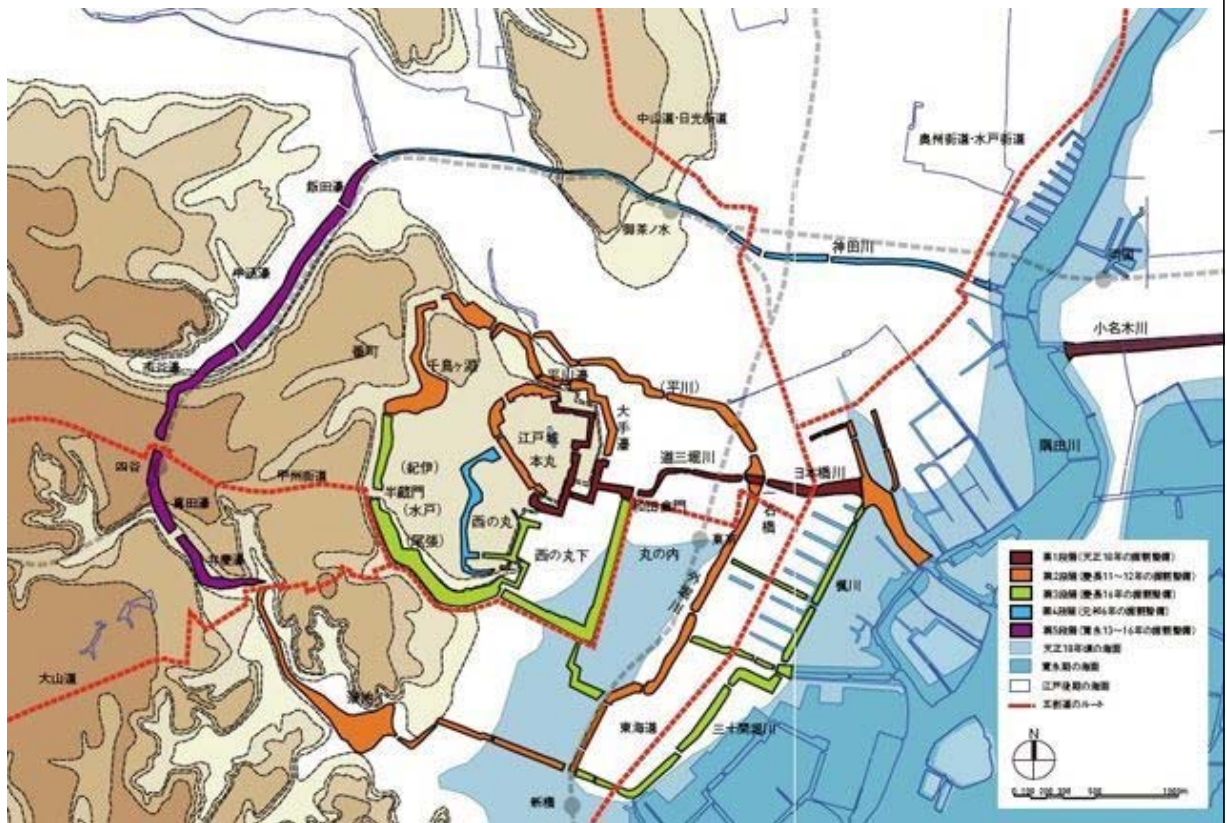


図24 平川の改修 平川・小石川の水を隅田川に落すため、本郷地南端(神田山)に掘割水路をつくった。これが御茶ノ水の掘割。切りはなされた台地は駿河台となる。平川は現在の三崎橋一堀留橋間を埋め立てられた。



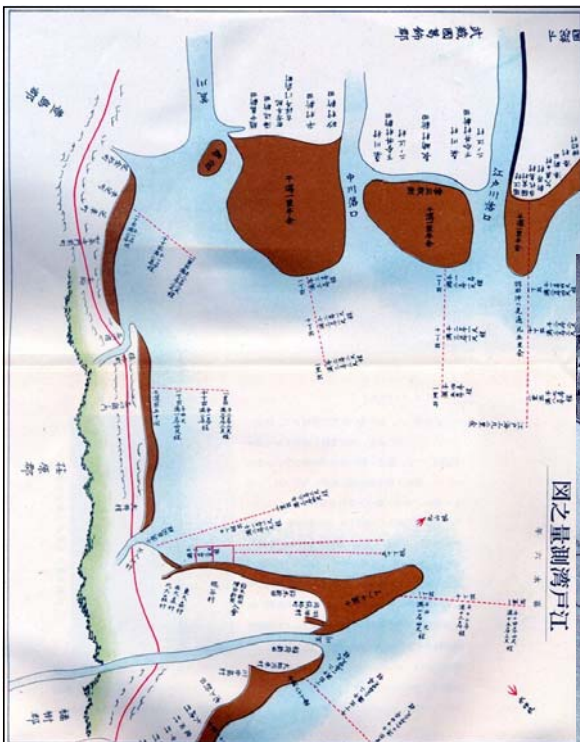
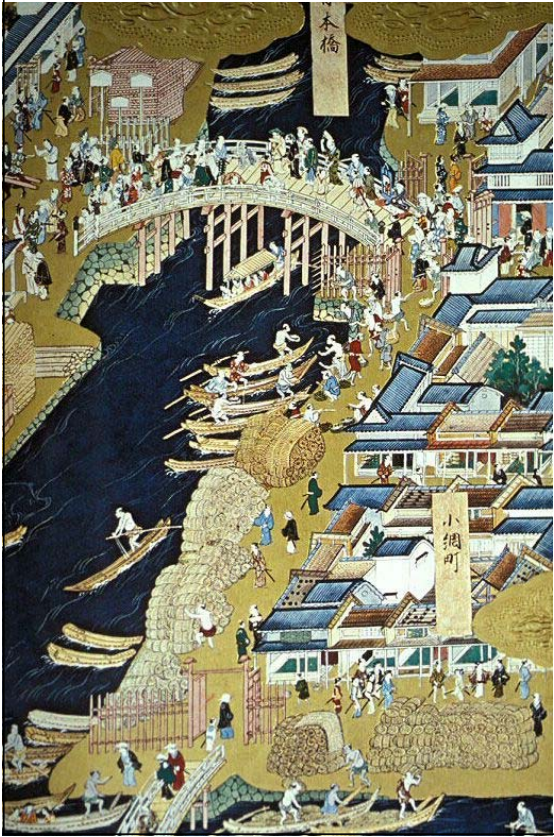
寛永期までの江戸城内濠・外濠の整備 作成：岡本哲志氏



江戸湊

佃沖には全国から大型廻船が集った 広重「東都名所永代橋全図」都立中央図書館蔵

水辺 多様な機能、活動、意味
舟運, 物流, 商業活動



東京湾 漁業、漁師町



c1960



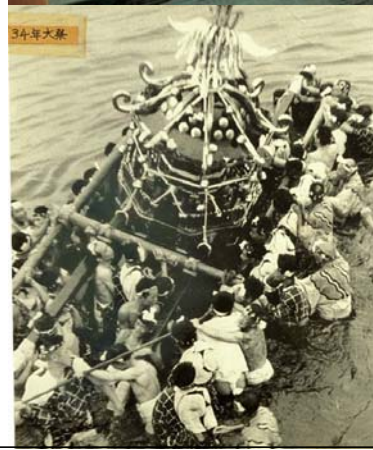
Tsukudajima 佃島



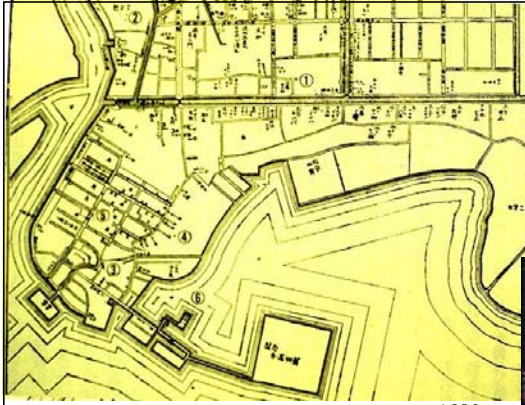
祠



River City 21



祭礼

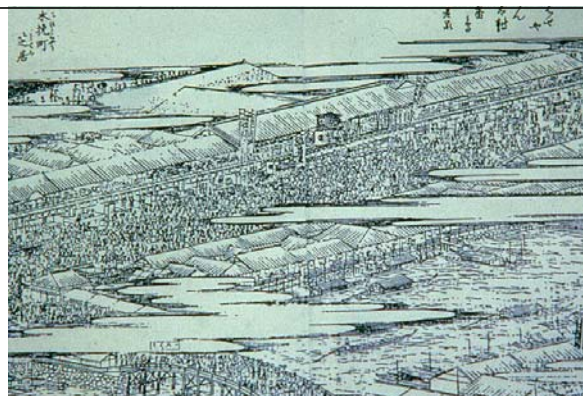


c1680

深川

産業・生活・文化が全て水と関係

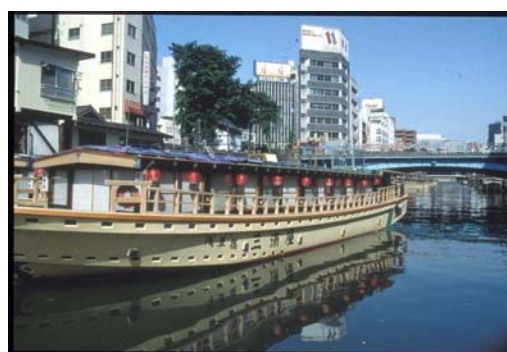




木挽町 1830年頃

芝居小屋、演劇、遊び

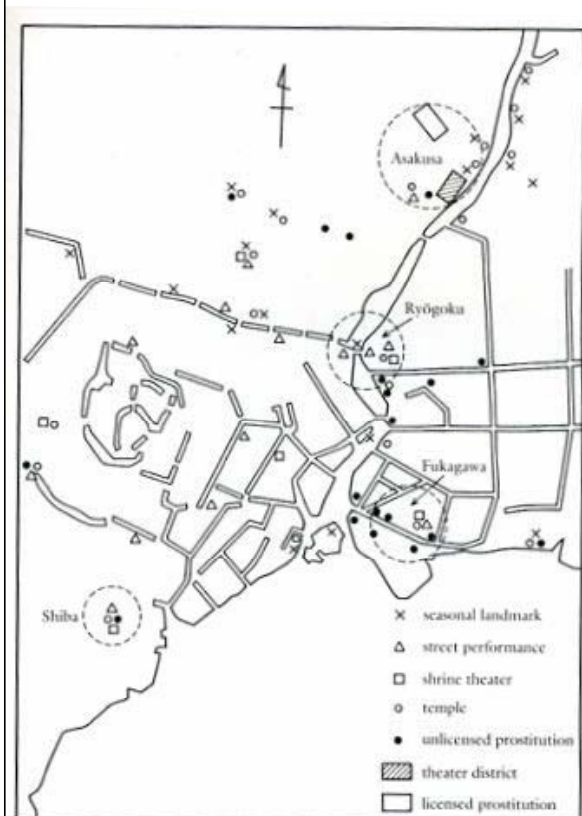
日本の都市文化には、水との遊びがある



浅草・両国・深川

都市の意味ある場所・空間が水辺に集中

祝祭空間、広場、遊び・エンターテインメント





井上探景「江戸橋ヨリ鑑橋遠景」明治期 (中央区郷土天文館蔵)



281 飯田町高架橋上より望んだ九段下方面

282 高塔が壊れた神田駿河台のニコライ堂

277 浅草仲見世の煙草跡

276 上野広小路 松坂屋呉服店の焼跡



283 神田一ツ橋如水会堂の焼跡

284 涌島天神より望んだ下谷方面の焼野原

278 焼落ちた吾妻橋の惨状

279 神田須田町万世橋駅の焼跡



285 通信省と農商務省の焼跡



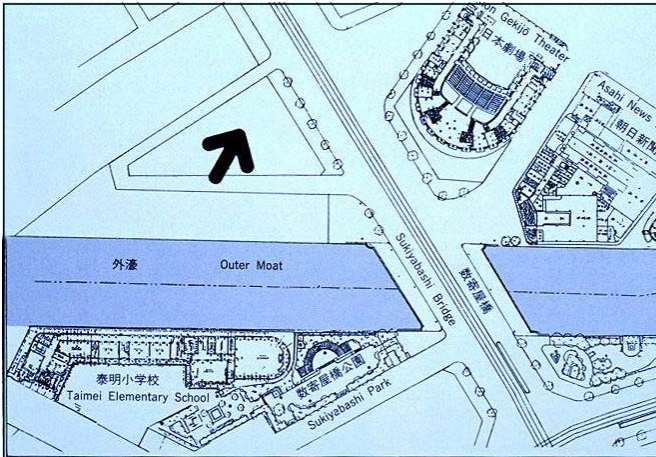
286 新橋より望んだ銀座通りの焼跡



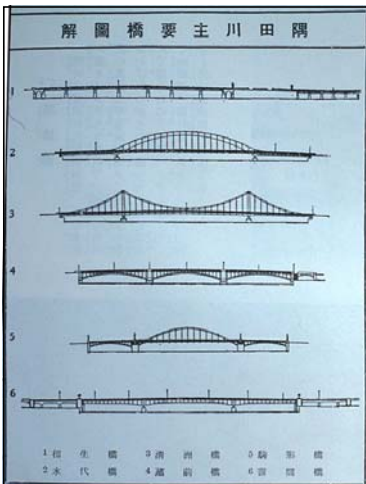
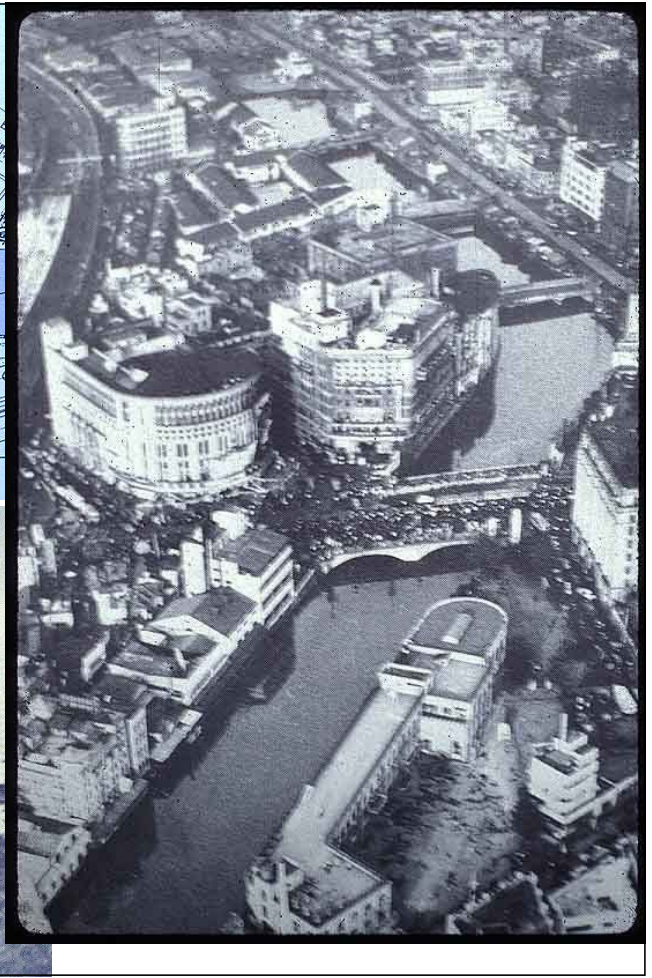
281 日本橋三越と正金銀行の焼跡



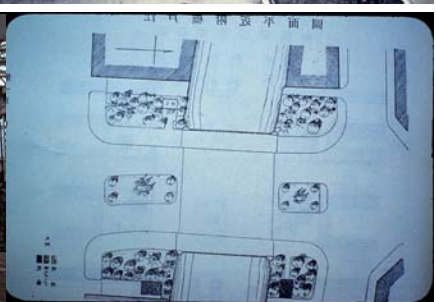
280 日本橋丸善の焼跡

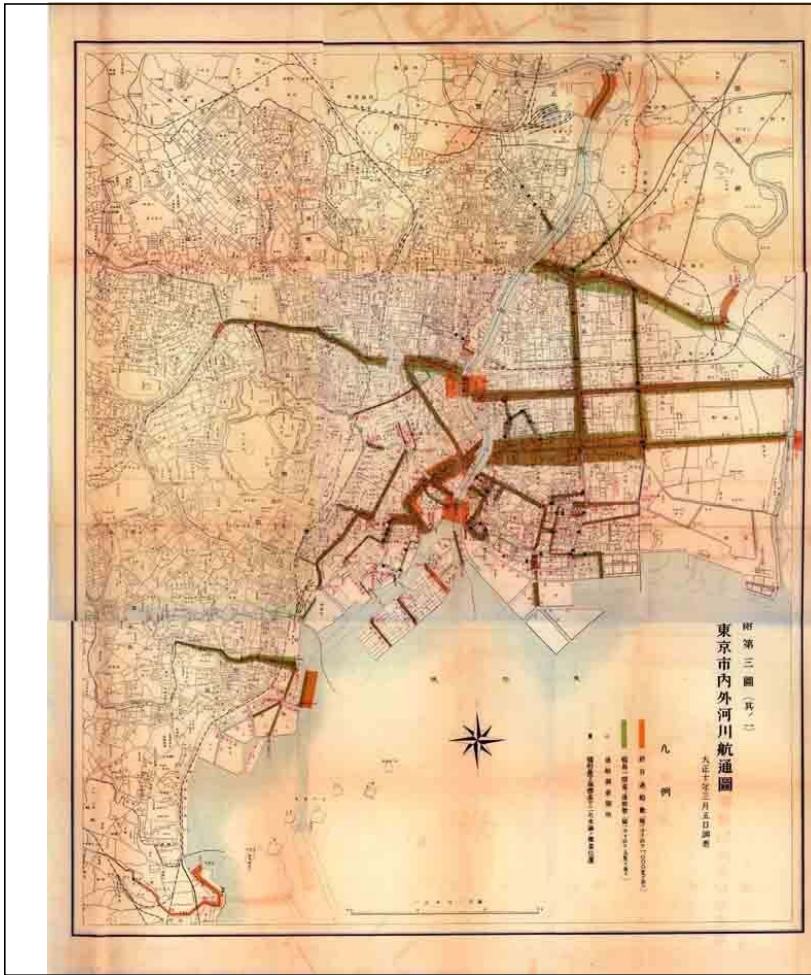


昭和初期の数寄屋橋
Sukiyaoshi Bridge in the early Showa Period (late 20's — early 30's).



モダン東京の水の都市





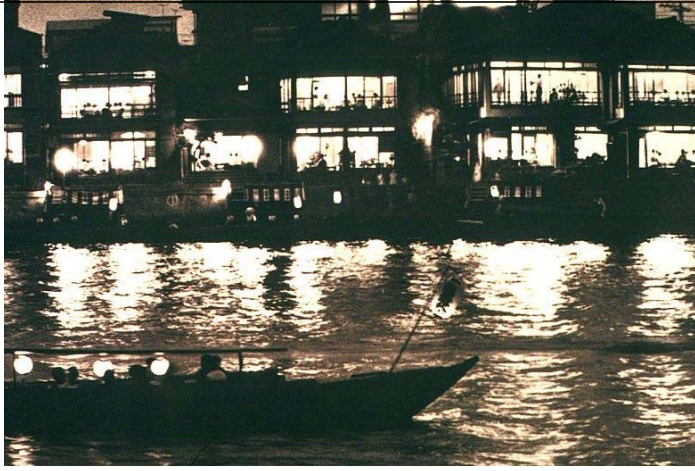
東京市内外河川航通図 1921年
(都立中央図書館蔵)



昭和36年当時の柳橋周辺。

昭和36年当時の柳橋周辺

所蔵：小松屋



水辺に栄えた柳橋の料亭街
(出展：台東区立下町資料館)



両国花火 1960年 (提供：柳橋町会)



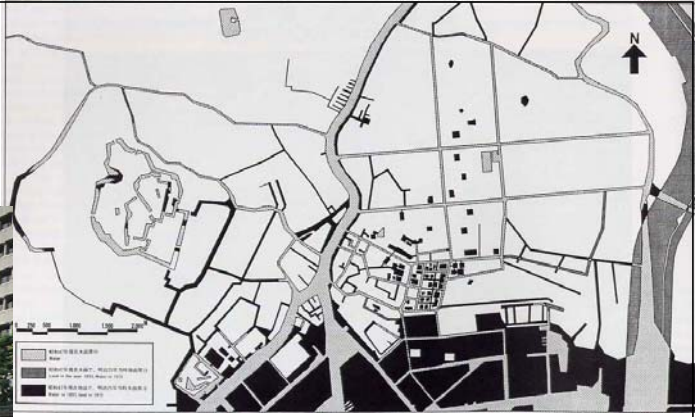
「河岸ぶちの家」
柳橋新聞 昭和33年10月15日 第9号12

提供：柳橋町会

水辺の喪失 1960年代



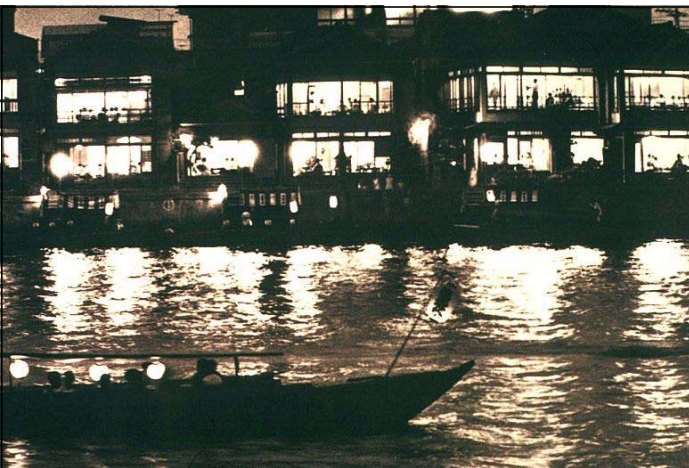
高速道路



埋立て



東京都心部の水辺の埋め立て（明治25年と昭和47年の比較）（岡本哲志氏による）





水の都市の再生へ
70年代後半

自然の回復、
イベント、
レクリエーション
の復活



水の都市の再生
第二段階

80年代前半 ウォーターフロントでの住宅建設プロジェクト



水の都市の再生
第三段階

80年代前半

ロフト文化
文化活動
ギャラリー、レストラン、ディスコ等

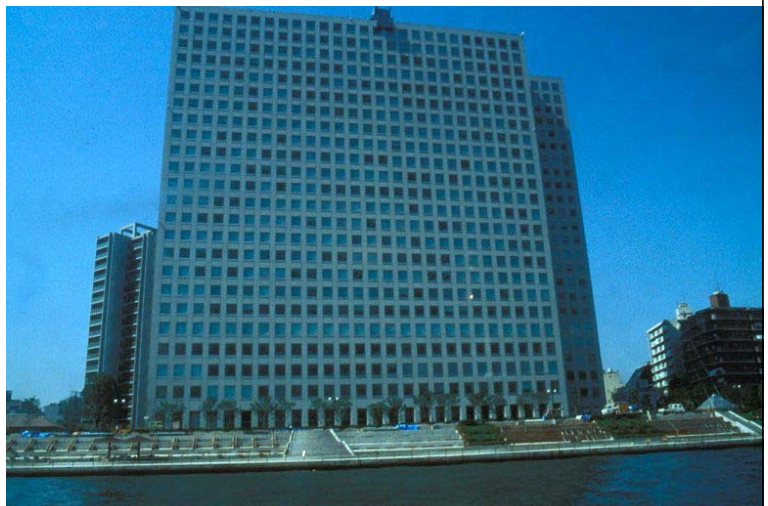


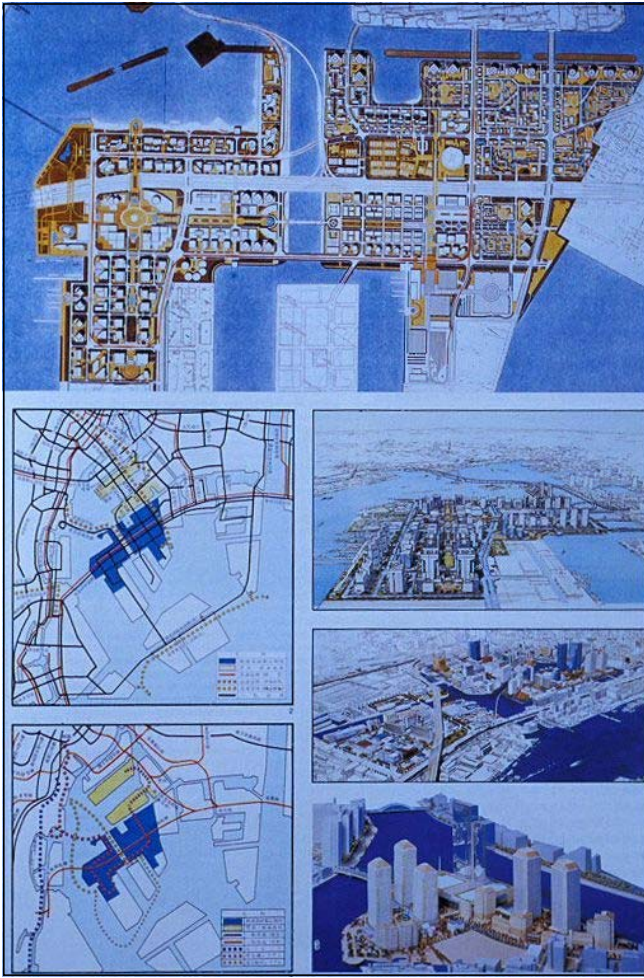
スーパー堤防

IV 段階

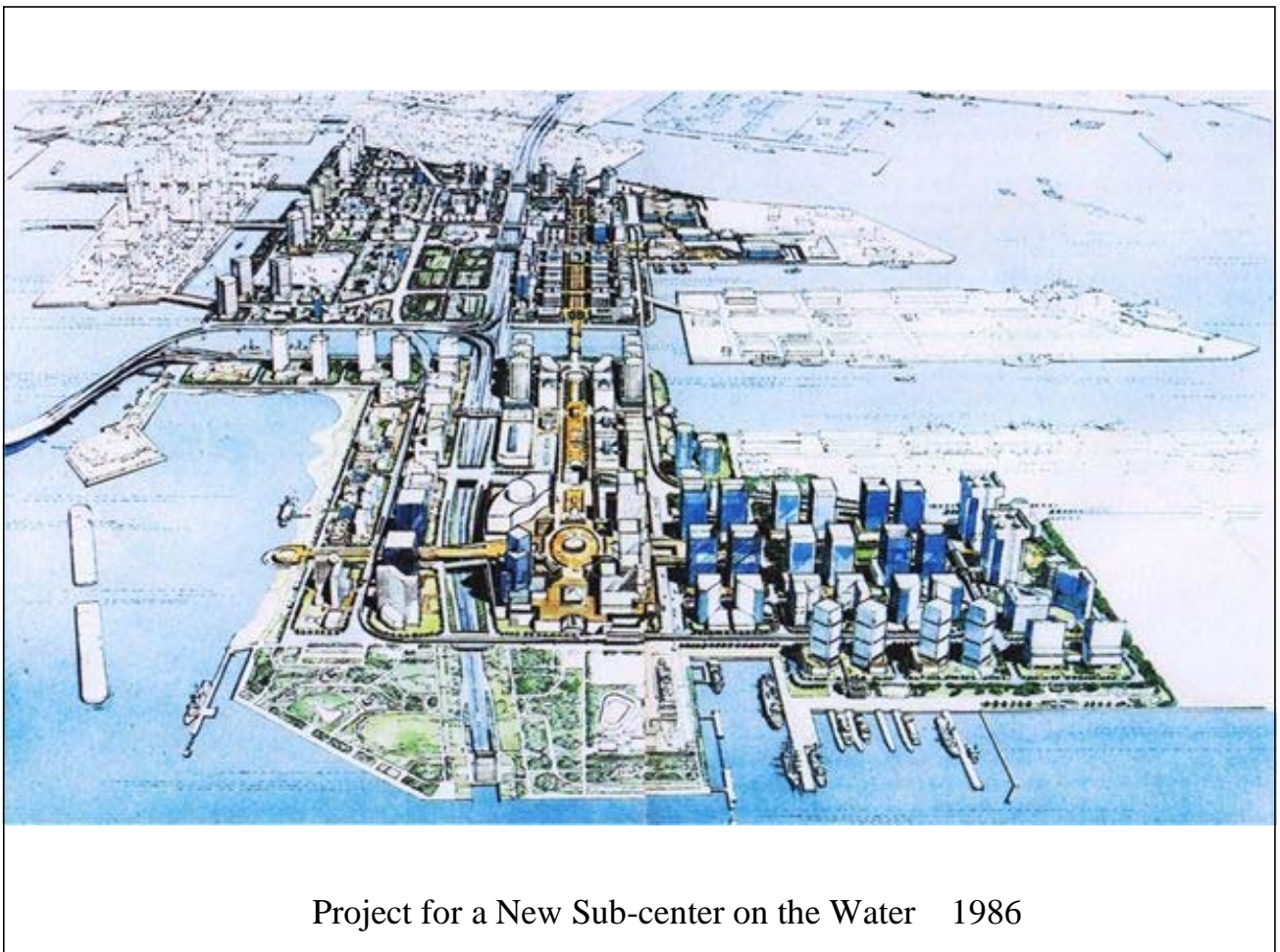
(80年代後半=バブル経済)

高層ビル
古い建物（倉庫）の破壊





海上に第7の副都心計画 1985-86年
加熱気味のウォーターフロント・ブームと挫折



Project for a New Sub-center on the Water 1986

文部科学省学術フロンティア推進事業

東京源流展

～ 源流から解き明かす東京水圏の再生 ～

2007年1月10日(水)～14日(日)
千代田区北の丸公園内 科学技術館

* 全て入場無料

川をきかのけり、田舎をきかのける
東京源流展「源流から解き明かす東京水圏の再生」
1月10日(水)～14日(日) 10:00～17:00(最終日は18時まで)
特設会場(1F10号展示室)

水圏の再生に思いをめぐらす
東京源流展「変遷で語る」
～東京水圏の再生～
1月13日(土) 10:00～17:00
特設会場(1F11号展示室)
第一部 10:00～12:00 「多摩川」(1F11号展示室)
「荒川」(1F10号展示室) 「荒川」(1F10号展示室)

そして2万5千年前の古河川から
また日本の国が成立した昔から
現在、未来の東京圏、東京水圏を展望します

シンポジウム
「歴史とエコロジーの視点から語る東京水圏の再生」
1月14日(日) 13:00～15:00
科学技術館サイエンスホール(申し込み別/定員400人)
第一部 13:00～
オペラ「みづから語り始める水の手」とアリア
第二部 14:00～
リレートーク1 「東京源流を語る～その現状と課題」
多摩川(中野区立多摩川源流資料館) 荒川(埼玉県立川口歴史資料館)
利根川(埼玉県立水郷歴史資料館) 荒川(埼玉県立川口歴史資料館)
東京湾(東京都立湾岸センター)

15:00～
リレートーク2 「東京源流を語る～その現状と課題」
東京電力(東京都港区) 国土交通省(東京都港区)
全国水圏研究会(東京都港区) 法政大学(東京都千代田区)
もすび 法政大学エコ地域デザイン研究所 関係者

※シンポジウム申し込み先
名前、所属(または住所)をご記入の上、
以下までお申し込み下さい。
法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
メール: eco-history@k.hosei.ac.jp 又は FAX: 042-387-6365

次のステップへの挑戦

川の流域へ
テリトリーオへ
水循環へ

主催： 法政大学エコ地域デザイン研究所 042-387-6365
共催： 多摩川源流大学(東京農業大学・文部科学省現代的教育コース取組支援プログラム)
協賛： 東京電力(株)
後援： 国土交通省、環境省、東京都、新宿区、小菅村、みなかみ町、川場村、日野市、多摩川源流研究所、
(予定) 荒川流域ネットワーク、まごかか学舎、NPO法人利根川と下流連携支援センター、NPO法人全国

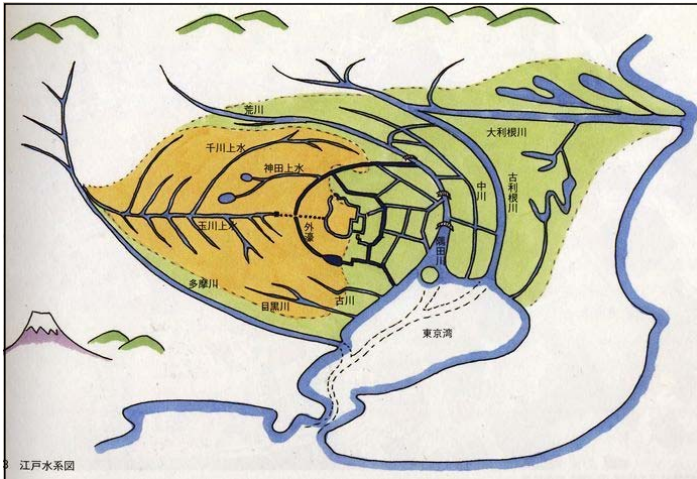
**水の都市
江戸・東京**
陣内秀信＋法政大学陣内研究室 編

「水都学」誕生!
都心や下町の川・濠・運河から、湾岸、郊外の「水の郷」まで
歴史とエコロジーの視点から一望する“知的ガイドブック”
講談社

2013年

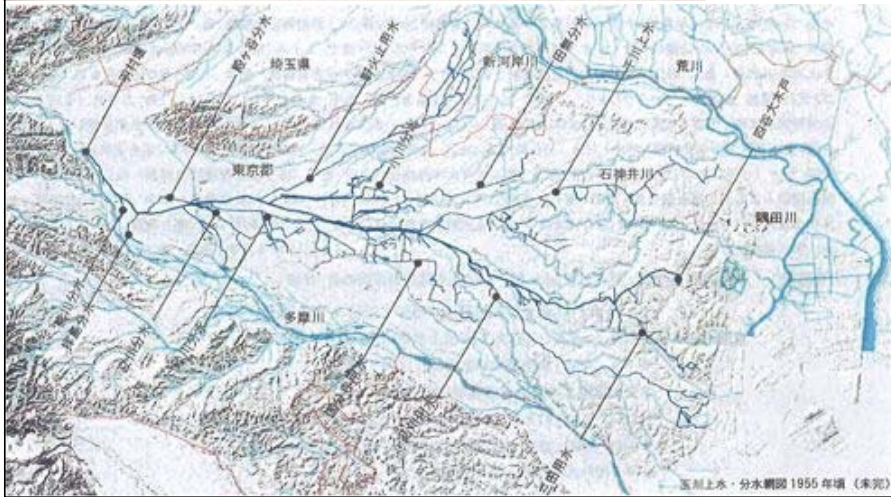
東都近郊図 品川歴史館蔵

江戸東京のテリトリーオの河川網

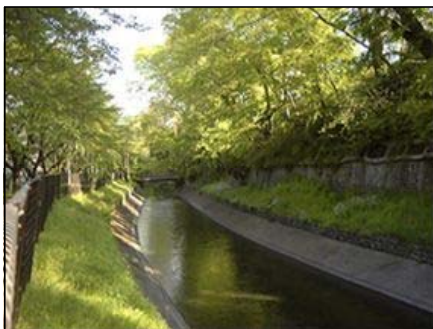


江戸東京 水循環都市

江戸東京の水循環システム
(作成：神谷博)



玉川上水
42km



玉川上水 歴史・エコ廻廊



武蔵野台地に刻まれた水と緑の回廊
玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ
第1回 シンポジウム

日時：2015年5月29日(金) 15:30～18:30
場所：武蔵野スイングホール
主催：玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会

参加費無料
参加費：500円
会場：武蔵野スイングホール
〒180-0022 東京都武蔵野市保2丁目14番1号
TEL: 0422-54-1313
http://www.tokyo-canal.or.jp

プログラム
第1部 講演 (15:30～)
挨拶：武蔵野市長 西土 守正
高松知事：高松 誠典 (早稲田大学名誉教授、日本自然保護協会顧問)
講演1：玉川上水・分水網を世界遺産に
真山 将 (筑波大学大学院教授、元東京都副知事)
講演2：未来遺産の考え方と玉川上水・分水網
西村幸夫 (東京大学大学院教授)
講演3：歴史文化的景観的価値と保全管理
本中 満 (文化庁世界文化遺産アドバイザー)
第2部 市民の運動情報等 (17:15～)
(1) 玉川上水と分水網から未来遺産申請へ
橋本 利博 (宇治市立伊豆東部ユネスコクラブ)
(2) 玉川上水・分水網の歴史と未来
中里 研亮 (玉川上水の中核となる武蔵野市長の会代表)
今後の活動方針
(1) 第1回シンポジウムのまとめ
松下 雅哉 (中央大学教授)
(2) 今後の活動方針について (事務局)



※準備会の催し、賛同者・連絡先等は裏面に記載ください。



『外濠 江戸東京の水回廊』
 法政大学エコ地域デザイン研究所 編
 鹿島出版会
 2012年4月10日発行
 2,500円



武蔵野台地の地形地質

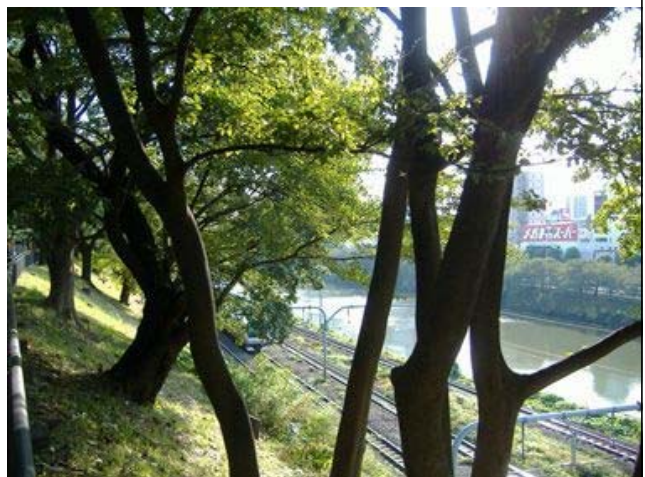
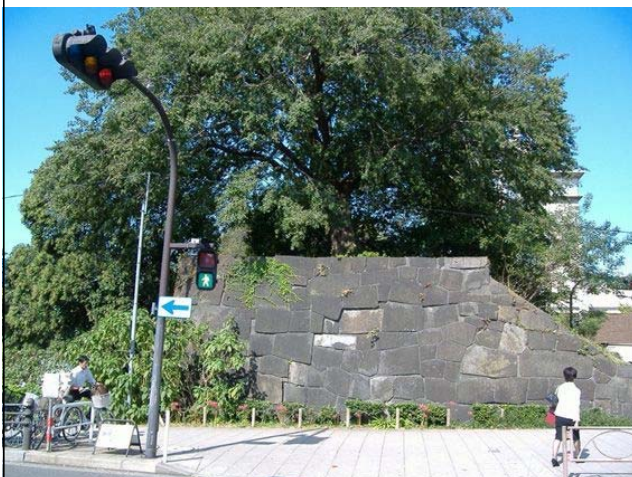
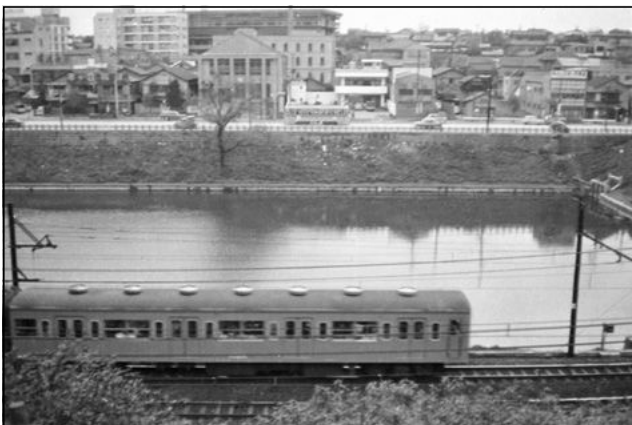
貝塚爽平『東京の自然史』の図「山の手台地の開析谷と泥炭地」をもとに神谷博氏が作成

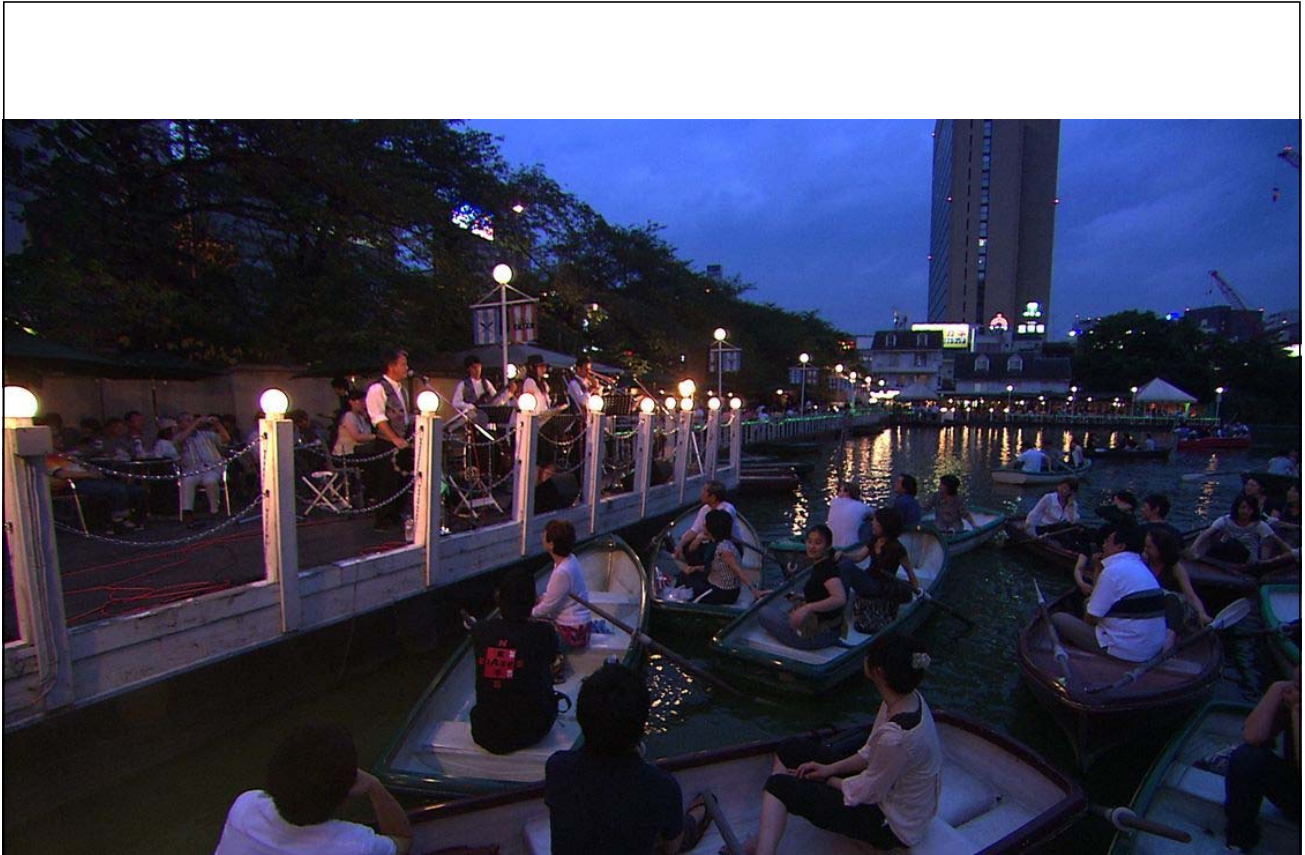


水循環の再生
歴史・エコ廻廊
 内濠、外濠

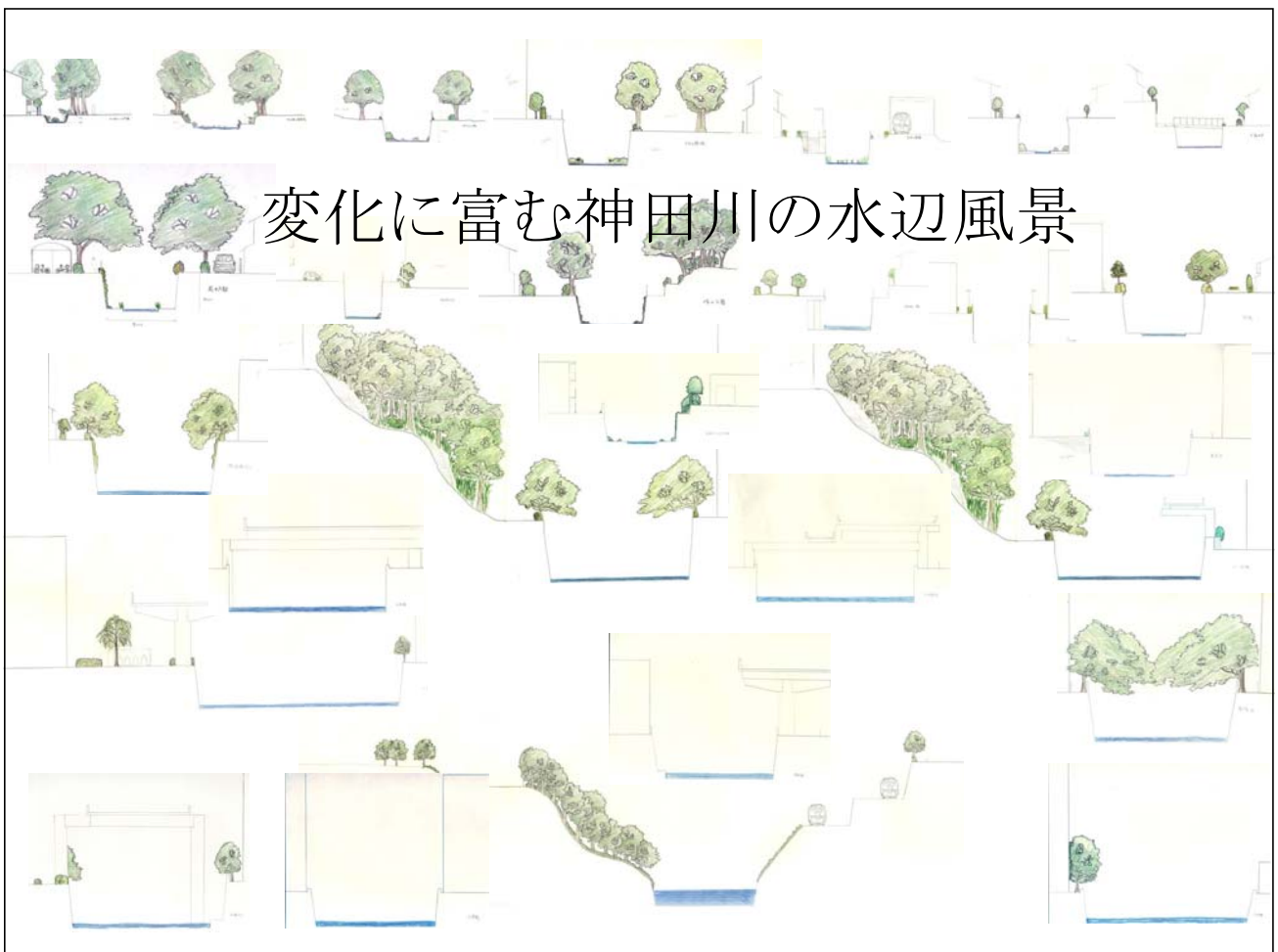


外濠



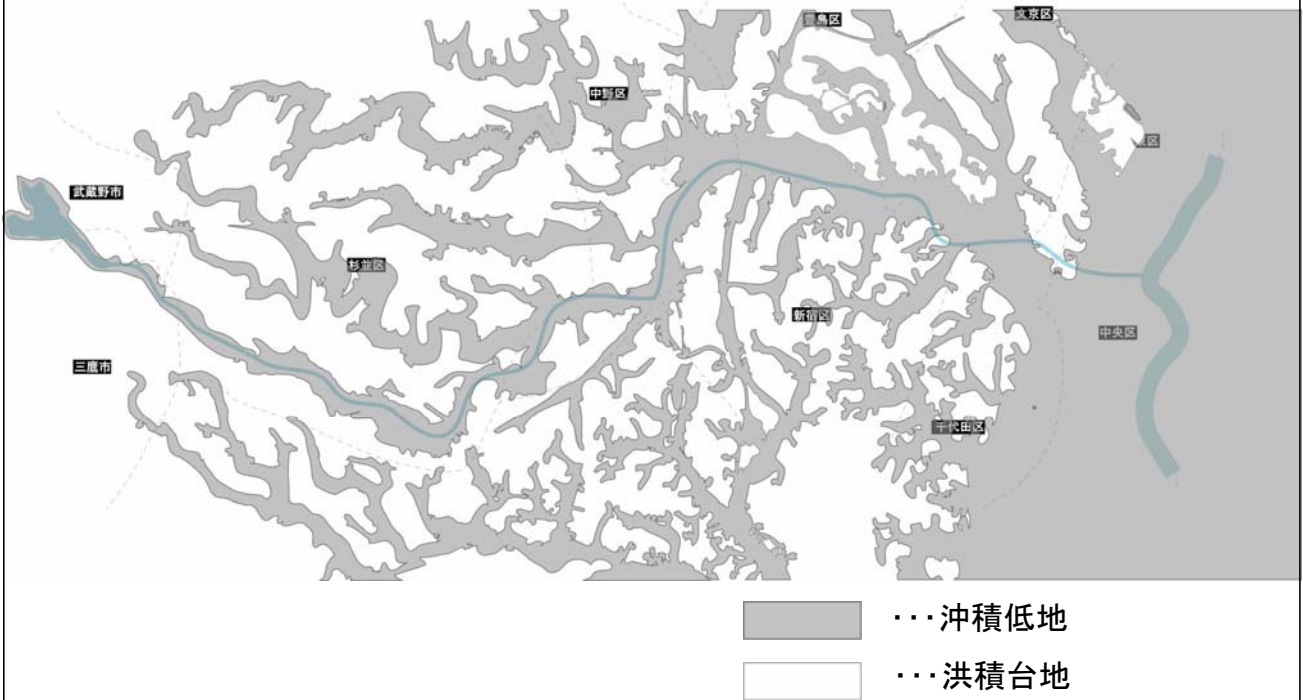


水上ジャズコンサート 外濠にて 法政大学エコ地域デザイン研究所主催



神田川沿い本来の地形

地形に合わせて、水を活かした様々な土地利用／多様な景観



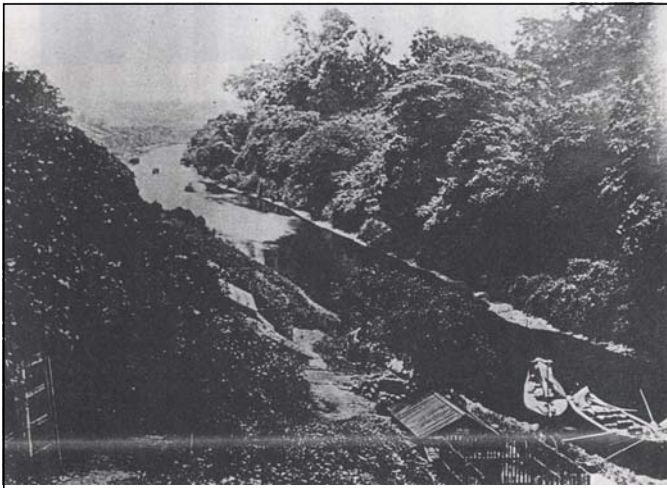
カンダグがあ@Takamichi, Tanimori, Takahashi, Mおりや

Mejiro
目白



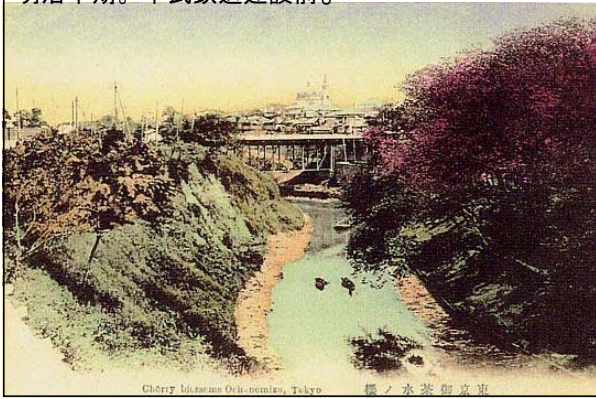
1883

東京が誇る歴史的斜面緑地
 神田川⇒水神社 湧水⇒大名屋敷の回遊式庭園
 水+緑⇒歴史+エコロジー⇒「歴史・エコ廻廊」 (エコ研：高橋賢一氏)

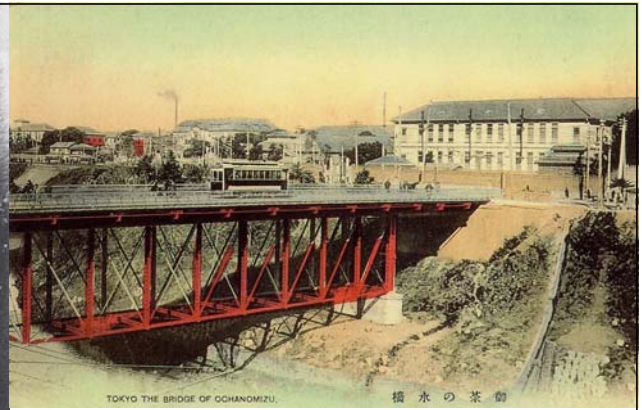


明治7,8年夏。蛍とホトトギスの名所。

明治中期。甲武鉄道建設前。



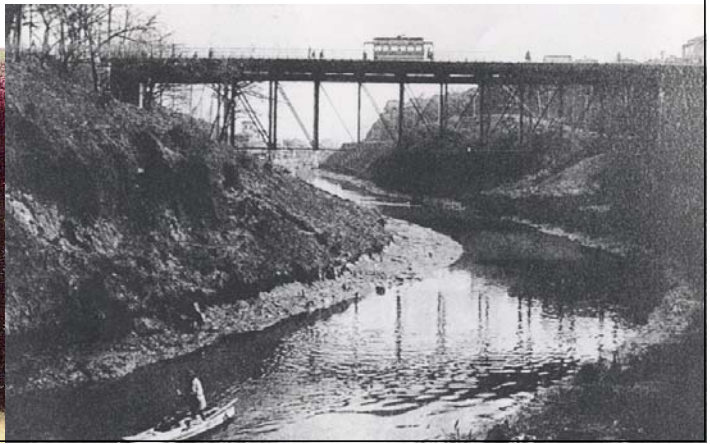
Cherry blossoms Ochanomizu, Tokyo 橋ノ水茶館京東



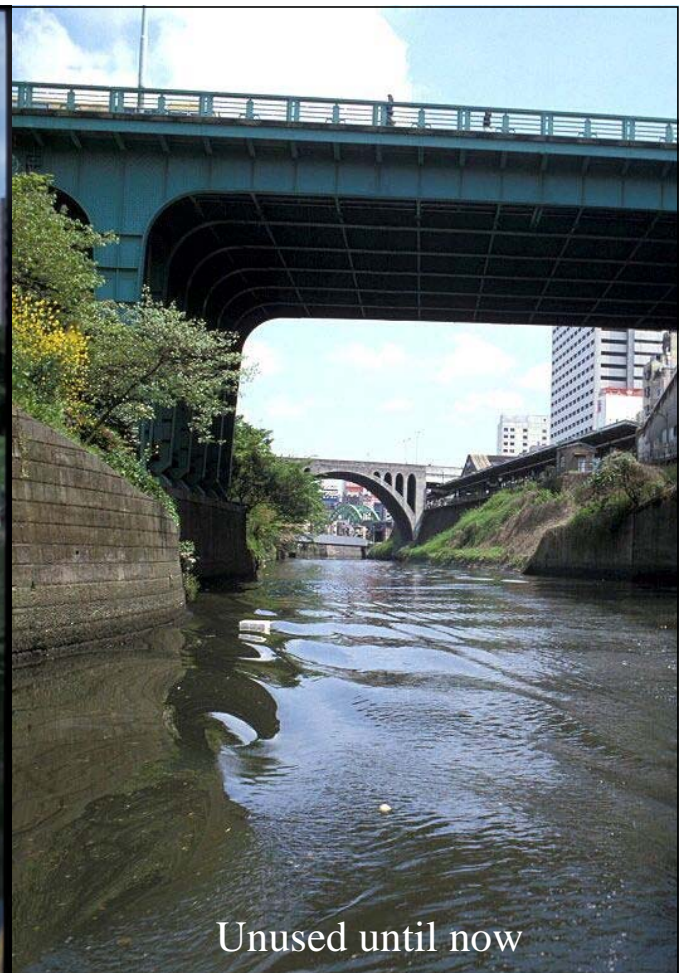
TOKYO THE BRIDGE OF OCHANOMIZU 橋水の茶館

明治20年代の絵葉書。右：東京女子師範学校

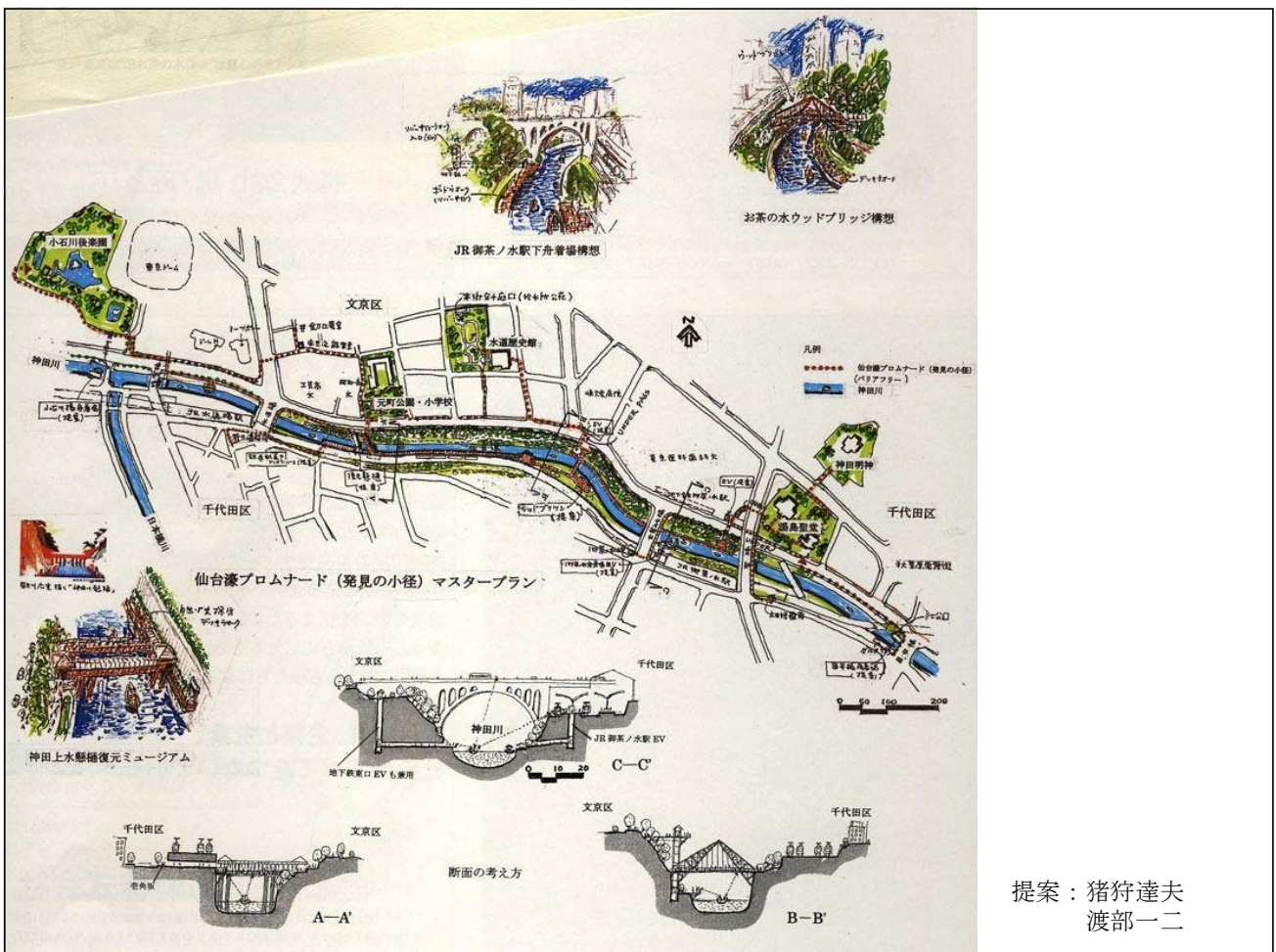
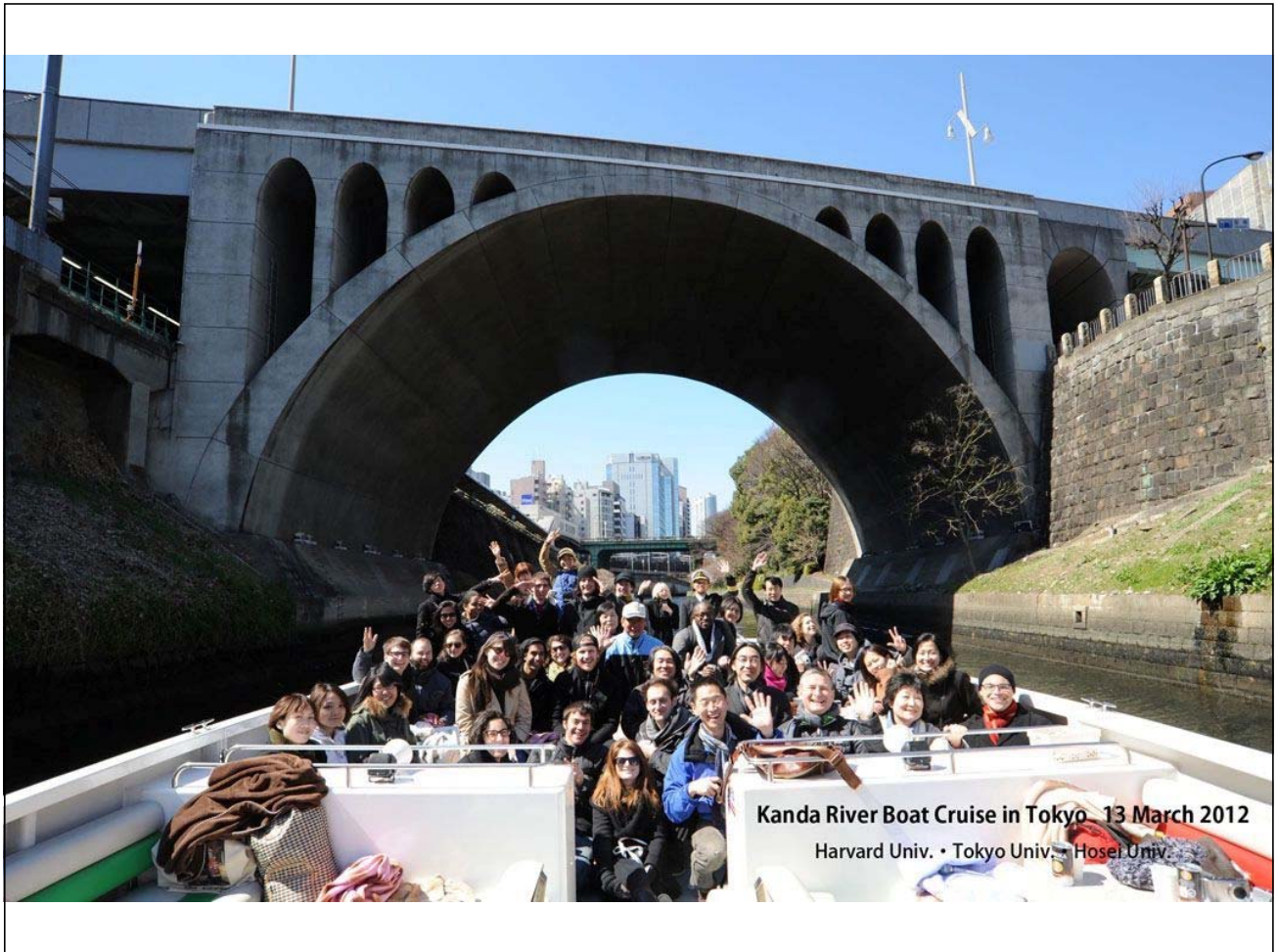
明治末。



Ochanomizu Valley
Oasis in the center of Tokyo



Unused until now



旧万世橋駅
～交通博物館に残る駅の遺功～

万世橋から博物館を望む。アーチは当時の面影を残している。

奥に見えるのは貨物用のエレベーター室。入り口のみ残る

高架線の煉瓦アーチ。当時の様子がそのままに残る。

博物館内でも現在も使用される当時の階段。

プラットホームへ続く階段。

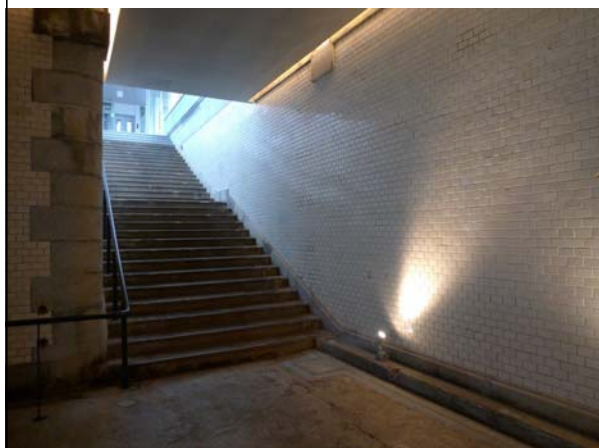
博物館屋上から見る万世橋駅当時のプラットホーム。

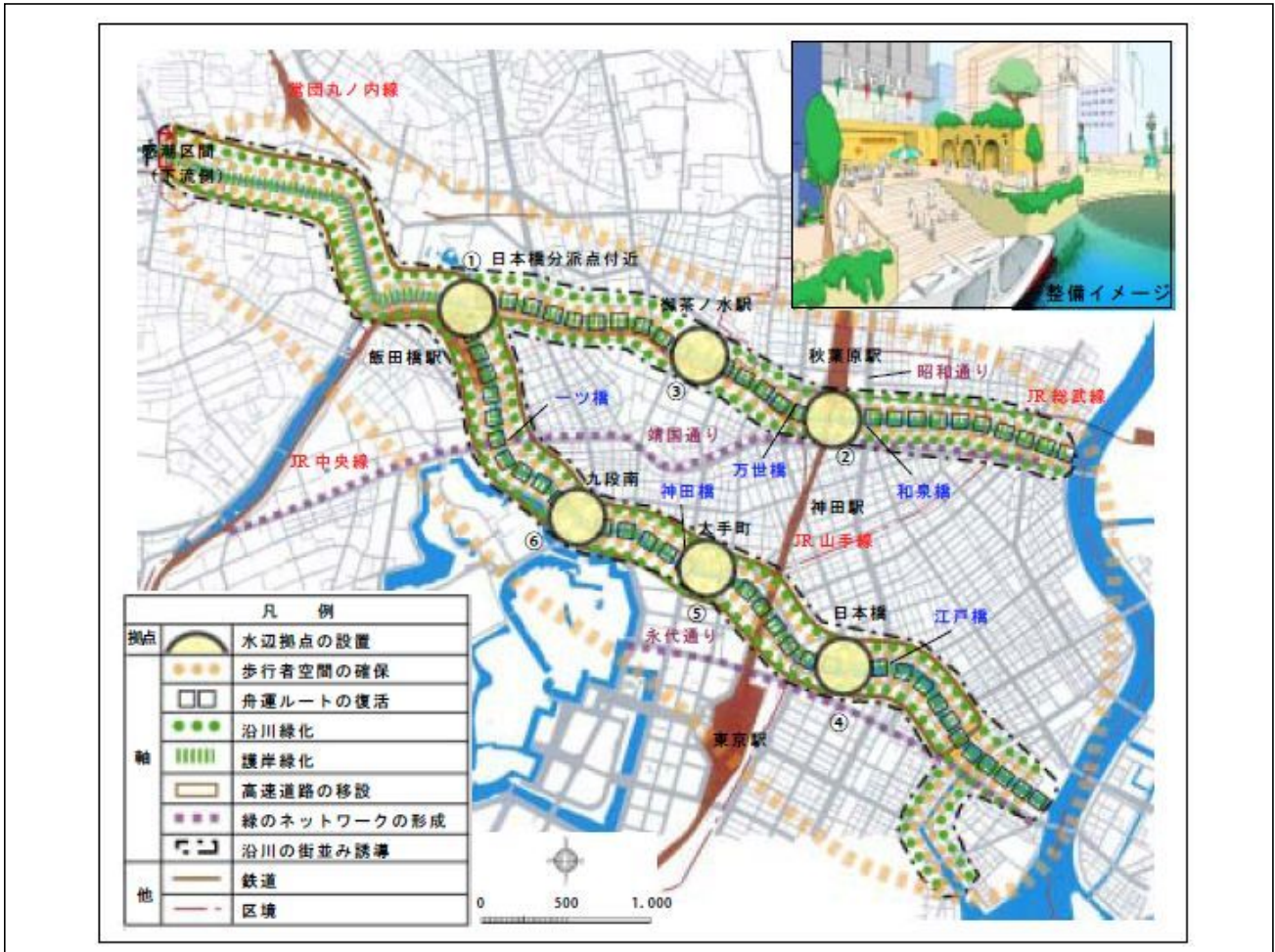
駅コンコースと電管用プラットホームを結ぶ階段。

博物館及新島世橋駅平面図



m'Ach ecute KANDA MANSEIBASHI





水の郷 日野

農ある風景の価値とその継承

法政大学エコ地域デザイン研究所 編

かつてどこにでもあった風景が、今や住民にとっても、来訪者にとっても、じつに貴重な環境と文化の資産となっている。本書で試みた地域の農ある風景や暮らしを調べ、記述し、地域づくりに活かす動きが、全国各地に広がってほしいと願う

——陣内秀信

都心からわずか30km。用水路が縦横にめぐる豊かな田園と近代的都市空間が共存する(東京都日野市)。長い歴史が育んだ「農ある風景」の価値を綿密なフィールドワークからいま、あらためて問い直す。

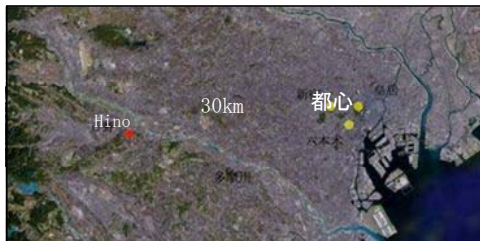
農島出版会 定価(本体●●●円+税)

水の郷 日野

農ある風景の価値とその継承

法政大学エコ地域デザイン研究所 編

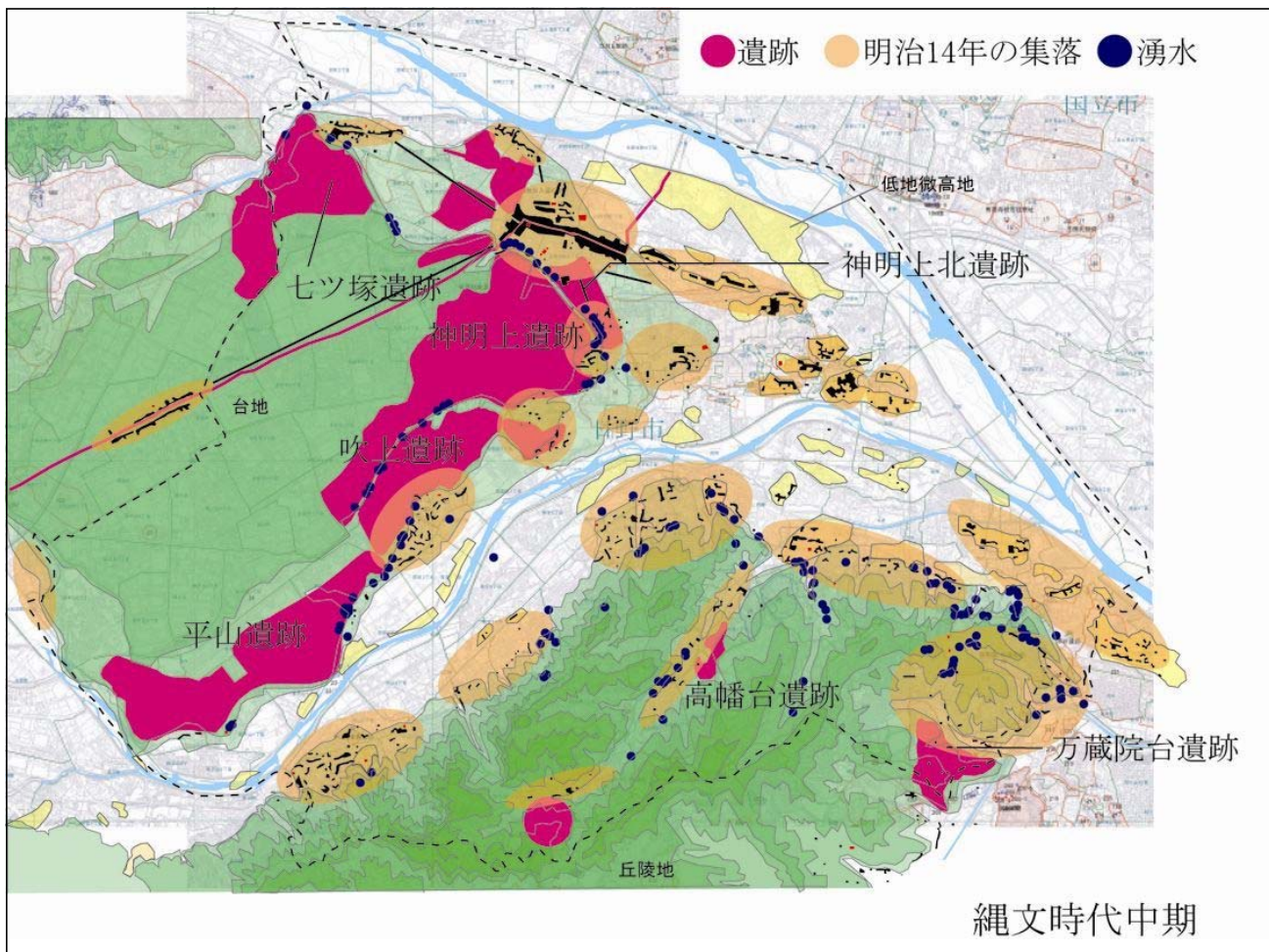
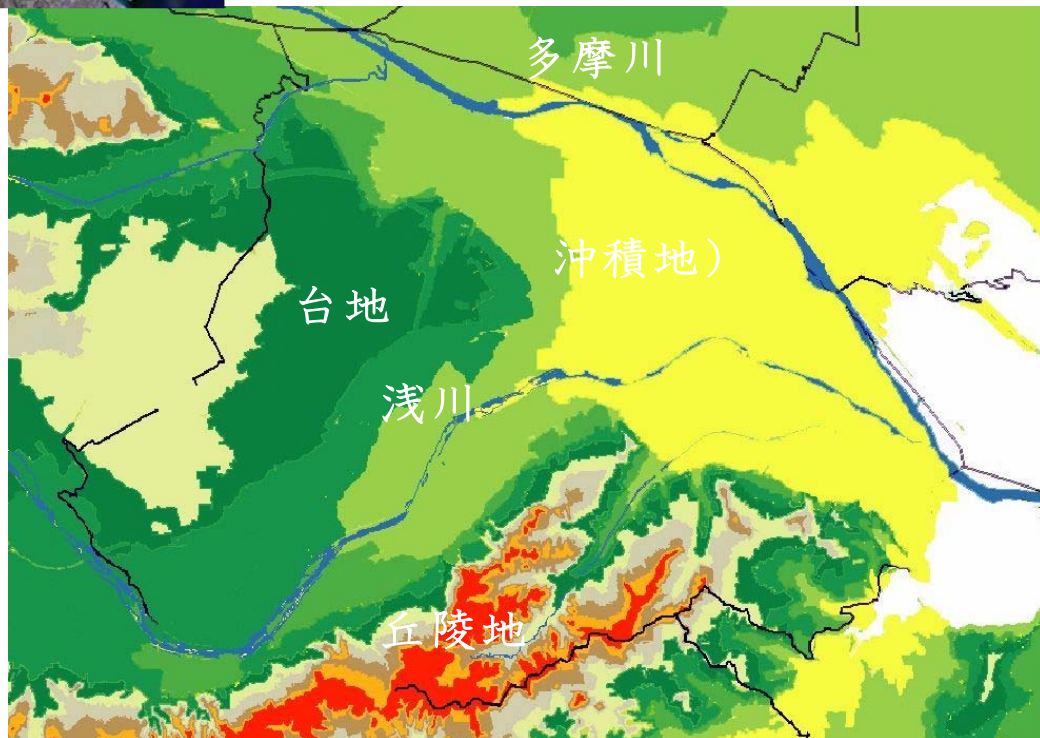
農島出版会

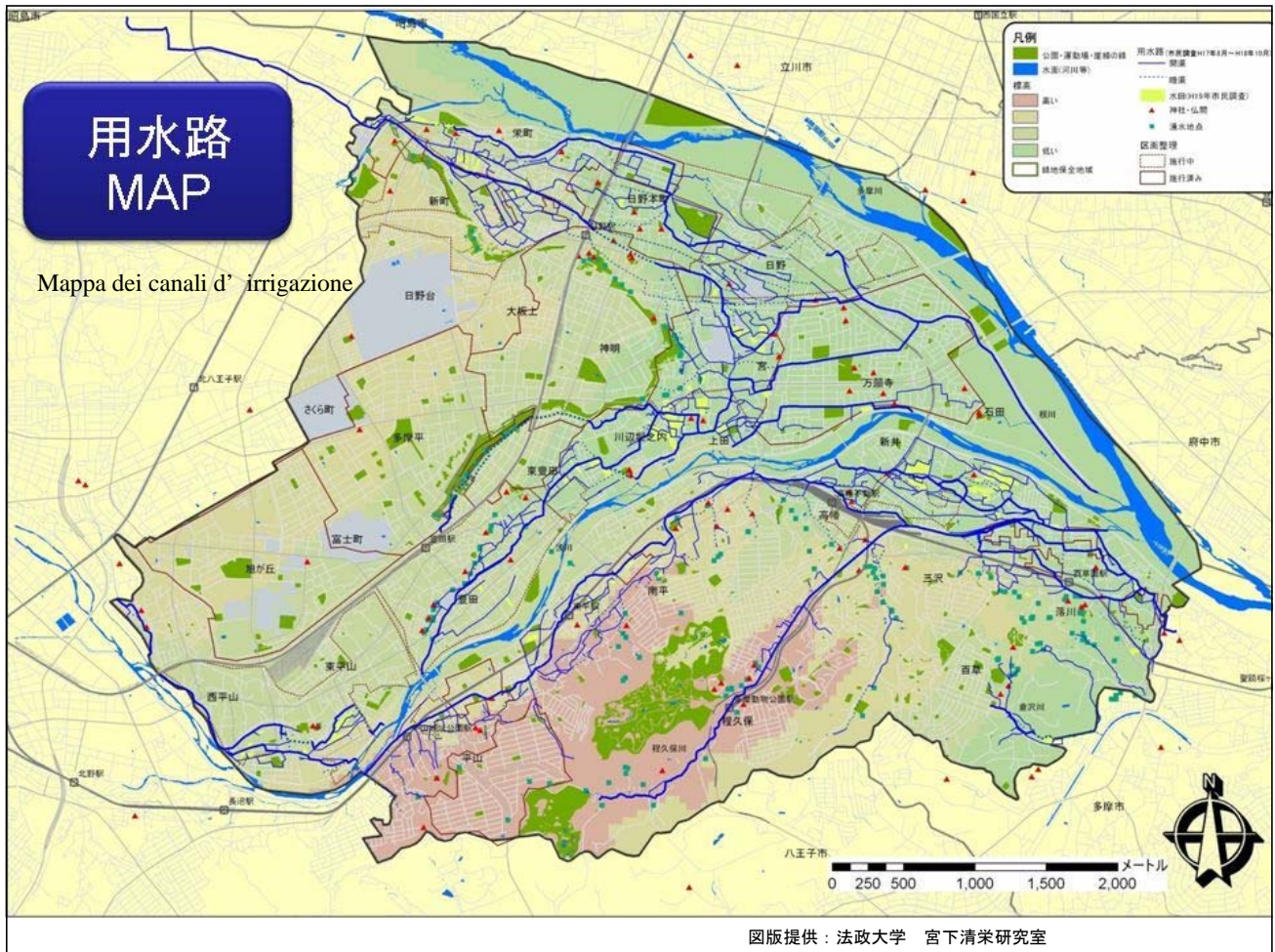


日野の都市と地域の風景を読む

歴史とエコロジーを結びつける

従来は水路ばかりが主体だった ルーラル・ランドスケープ全体へ
地形、山・湧水・川・用水、古道、街道、寺社、集落、遺跡、農地・・・



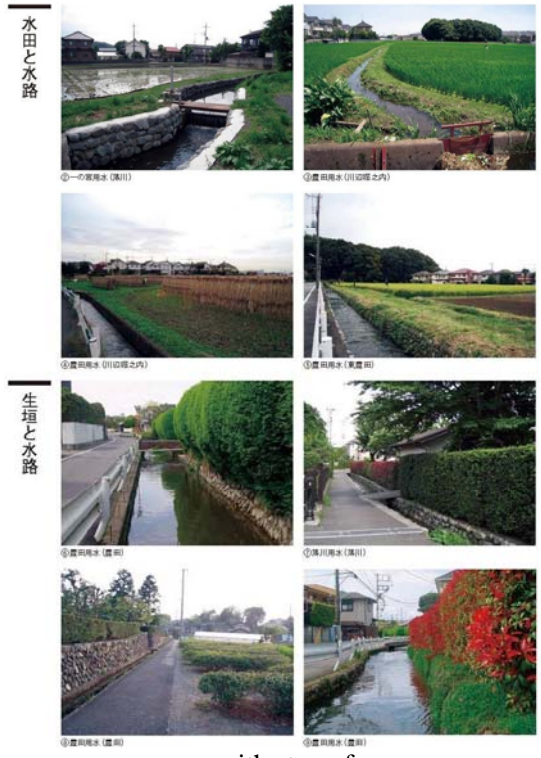


Variation of the irrigation waterways

図版・写真は、『水の郷 日野』より

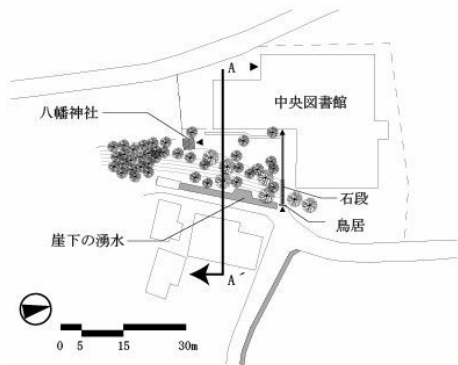
with rice fields

with streets



with stone fence

豊田 湧水と聖域（神社）



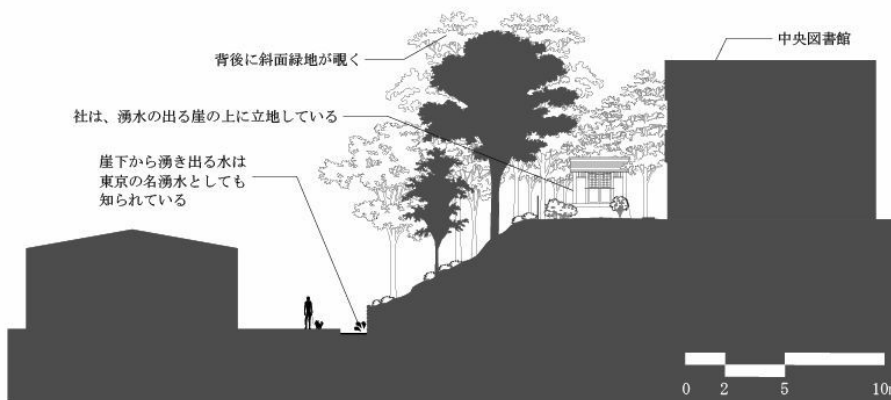
八幡神社配置図



鳥居と石段は図書館の庭へアプローチする



閲覧室は社にある庭に面している



八幡神社 A-A 連続断面図 1/300

図版作成：鈴木順子
磯絵理子
写真撮影：鈴木知之



市民が選んだ水の風景
2013-14年

<p>No.16 八幡神社下湧水 (中央図書館下湧水)</p> <p>日野には東京の名湧水37箇のうち3箇所がありますが、その内の一つがこの八幡神社下湧水です。中央図書館下湧水とも言われています。日野では2箇所に流るる多い湧水でMBCの駒を洗われ、豊田県内に流入します。かつて水車があった場所です。</p> <p>八幡神社は天竺地蔵の聖域で、豊田の七森の一つです。現在は中央図書館が八幡神社の敷地に建てられており、図書館からもその社を鑑みることが出来ます。八幡神社は豊田神社に合祀され、今は豊田神社として信仰されています。</p> <p>八幡神社下湧水は日野市の湧水保全条例などでも保護対象となっています。土地区画整理事業地内にあるため、今後開発される予定です。湧水と環境を流した水辺となることが望まれます。</p>	<p>No.17 カワド (洗い場)のある家</p> <p>日野44 (日野市東部地区)の山-住宅街の一角にあり、川筋に面した家です。</p> <p>この家の自宅敷地の隅の隅には水がこんこんと湧き、野菜など洗い物に利用されています。量はもつと湧水も多く、飲み水にも利用されているそうです。「カワド (洗い場)」と呼ばれています。この水辺を流した水は豊田川に注ぎ、カワノ子の鯉もあふたわたり、たぐさんの子どもたちが観察に来るそうです。土地区画整理事業地ですが、湧水地帯の取組の維持もあり、ぜひ見学も楽しめる環境にしていきたいです。</p> <p>西側には開闢して豊田の七森の一つ豊田の森 (白狐神社) があります。豊田の森、日野の湧水は湧水帯へと流れていきます。湧水帯は崖からの湧水を集め、豊田川へと注ぎ、豊田川で合流します。</p>
<p>No.20 こたわりの橋の架かる水路</p> <p>豊田134 (日野市東部地区)の山-住宅街の一角にあり、川筋に面した家です。</p> <p>豊田川沿いを流れる水車路の多くは石積みの護岸で築かれ、比較的早い水車が流らざるがゆえにたまりと濁れています。その水車には歴史的な価値のいくつかが残っています。自給の家には石の水車路、どこか和風の趣です。ドワンフジの生垣の家にはレンガ積りで保ち玉石仕上げのオリジナル水車がある。こちらも水車路です。豊田は水車路の文化も残っています。さらに水車路とモダンなスタイルの家が残っています。かつて共同水車があった場所です。水車に架かるこたわりの橋たちは、水車路のまち歩きを楽しくしてくれる存在でもあります。ガードレールがなくなっている部分がありますが、水辺環境に配慮した橋の整備が望まれます。</p>	<p>No.21 東豊田の田んぼと水路のある風景</p> <p>豊田141 (日野市東部地区)の山-住宅街の一角にあり、川筋に面した家です。</p> <p>川筋之内との間に東豊田に唯一残る田んぼがあります。周辺は宅地に変りましたが明治の終わりに行われた耕地整理による田んぼです。田んぼに近い水路は石積み護岸で豊かな水を蓄え流れています。水車も豊富で小魚もたくさん泳いでいます。川筋之内との間は段差がせり出し、こんもりとした水辺になっています。段差とつながるようになり、豊田川の水が豊田川へと注ぎ、豊田川で合流します。豊田川は川筋之内へと注ぎ、豊田川で合流します。川筋之内に注ぎ、日野神社を流れ、豊田川へと注ぎ、豊田川で合流します。</p> <p>川筋之内を通る新たな道路により周辺がどのように変わっていくのか気になるところです。</p>

水循環都市東京シンポジウム

趣旨

世界の水循環システムを誇った「水都江戸」の遺産である玉川上水を現代に活かすことにより、オリンピックで未だする人々に、世界の歴史と品格のある「水都東京」をお披露目して、美しく安心安全な東京で「おもてなし」をすることを議論します。

背景

東京は、多摩川水系、荒川水系、利根川水系の下流部に位置するメガシティです。そこにおける経済社会活動は、水害リスクを軽減し、都市の水源として利用し、エネルギーをかけて上下水処理する水循環で成り立っています。しかし、首都直下型地震において防災水利面では盤石とは言えず、オリンピックのマラソンコース沿いの外濠は、夏季に悪臭が漂い、更に、ゲリラ豪雨による浸水が頻発し、ヒートアイランド化も進行しています。

第二回「水都東京をつくる外濠の新たなイメージ」

日時：2015年1月22日（木）18:00～20:00

会場：法政大学（外濠校舎5階 S505教室）

交流会：法政大学（外濠校舎6階ホワイエ）20:00～21:00

※会費 2,000円

研究室からポスターの展示、発表があります。

主催：水循環都市東京シンポジウム実行委員会

（委員長：山田正 中央大学教授、第2回実行委員長：陣内秀信 法政大学教授）

事務局（第2回）：法政大学エコ地域デザイン研究所（問合せ先：田村広子）

Tel 03-3264-9517 E-mail: eco-history@k.hosei.ac.jp

後援：水文・水資源学会、土木学会、建築学会（申請中）、都市計画学会、造園学会（申請中）、日本学術会議（申請中）、内閣官房水循環政策本部事務局、国土交通省、独立行政法人水資源機構、

特定非営利活動法人日本水フォーラム

協力：多摩川流域懇談会、多摩川部流研究所、野川流域連絡会、全国水環境交流会、雨水ネットワーク会議、他呼びかけ中



二代国盛「江戸絵図」
（東京都立中央図書館蔵）幕末



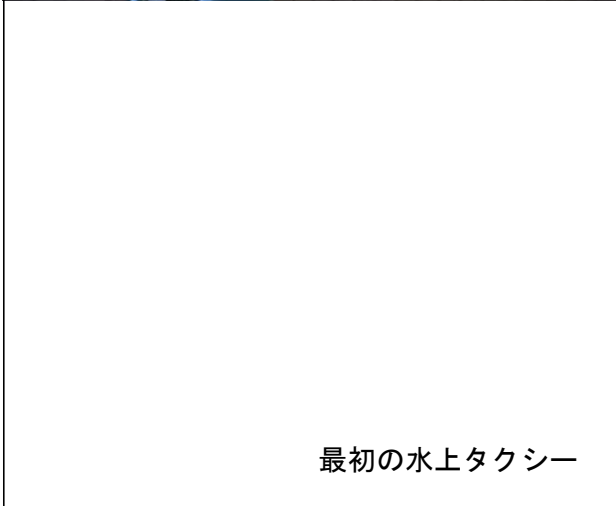
東京スカイツリー
押上に誕生の意味

江戸の鳥瞰図と同じアングル
舟運復活の可能性



日本橋

船着き場の創設、活用
舟運の復活へ貢献



最初の水陸タクシー



扇橋閘門

荒川ロックゲート

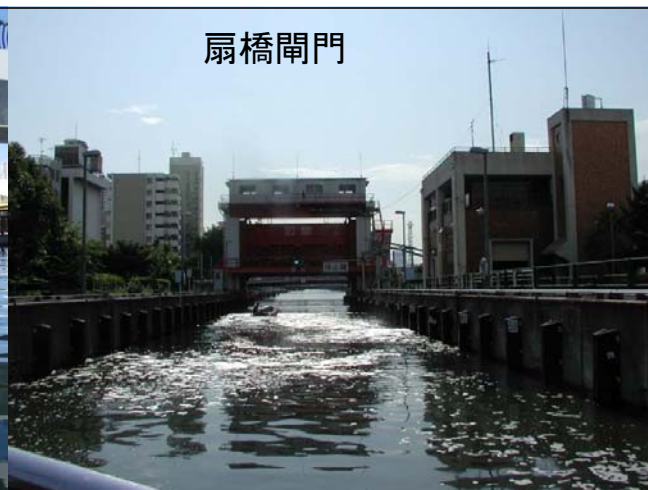


水と緑が街を彩る





扇橋閘門

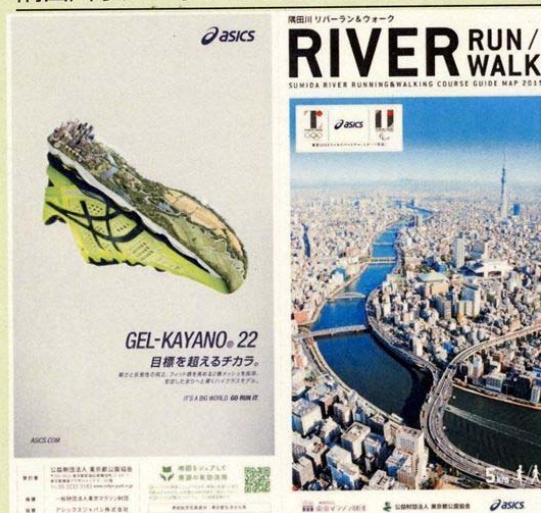


荒川ロックゲート



隅田川リバーラン
&ウォーク マップ

隅田川リバーラン&ウォーク マップ 9月下旬発行予定



発行者：東京都公園協会
協賛：アシックスジャパン株式会社

- 隅田川での健康増進利用の促進と河川環境保全の啓蒙
- 新たなユーザーの掘り起こしによる水辺のにぎわい創出
- 2020年東京五輪に向けた隅田川等の水辺の社会的認知の向上と利活用の機運醸成
- 3万部印刷（予定）
- Web上での情報提供（予定）





遂に実現した
隅田川オープンカフェ
台東区浅草



東京の基本構想



浅草

両国

築地
リバーフロント
ターミナル



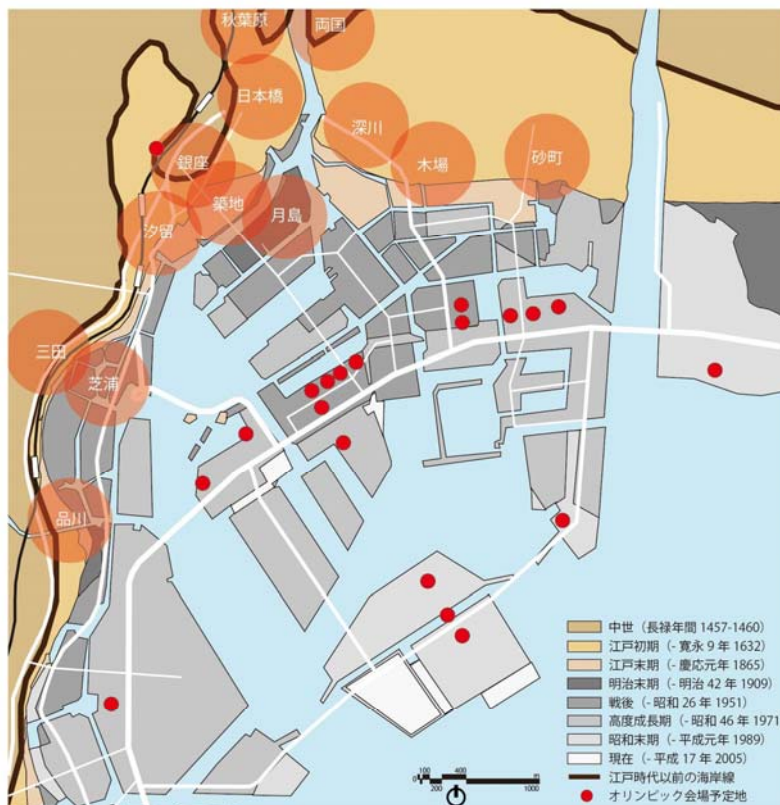
水上交通の活性化



<http://wangentower.com/?p=3607>

2020年東京オリンピック 多くの競技場、会場がベイエリアに

この機会にベイエリアを魅力ある場所に



時層を有する湾岸エリアとそれを取り囲む個性的な境界
 ベースマップは東京都港湾局港湾経営部振興課 (2005)『東京港ハンドブック』における地図を加工 作成：中島直人氏
 ・東京都港湾局港湾経営部振興課 (2005)『東京港ハンドブック』東京都港湾振興協会
 ・東京オリンピック・パラリンピック招致委員会ホームページ
<https://tokyo2020.jp/jp/plan/outline/index.html> 2015年5月14日閲覧

東京ベイエリアを再生する新たな戦略が必要

自然との共生、
 水に親しみ、様々な活用する文化、歴史的体験

新たな可能性を 世界に発信。

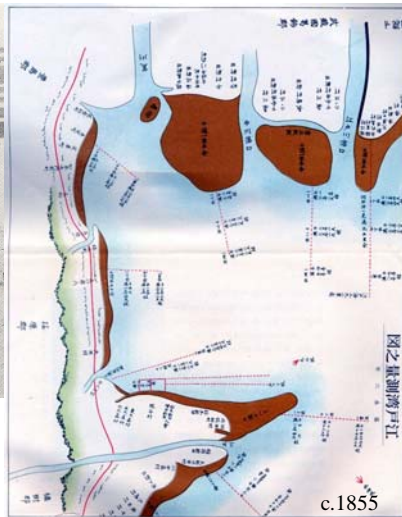


自然と人間が共生するベイエリアへ

浅瀬の海、漁業に良い
東京湾に漁師町がたくさん発達



Shallow sea



宗教の祭礼



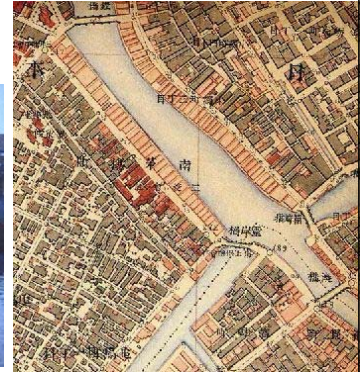
お台場海浜公園 海中渡御が今も行われる 品川・荏原神社

物流・ロジスティックスの近世から近代へ

江戸の内港システム



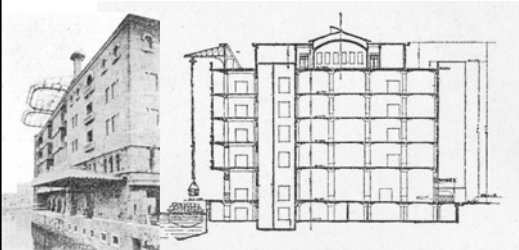
(岡本哲志による)



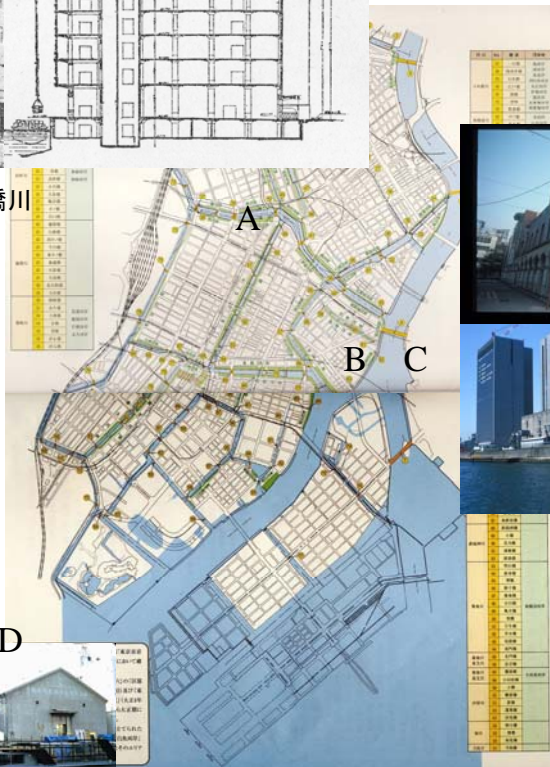
1884

c.1830

近代東京の物流システムの変化



A: 日本橋川



C: 佐賀町



B: 大川端

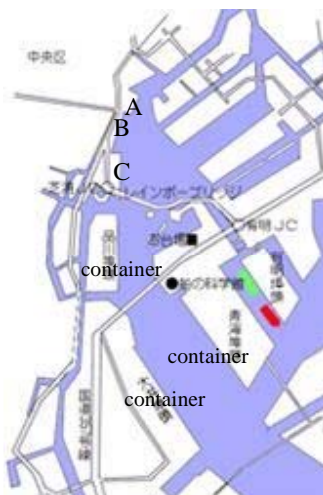
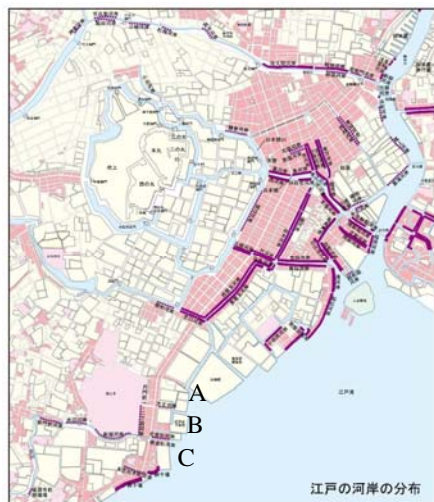


芝浦運河

Map of c.1900

1930年代に東京港が実現

横浜の反対もあり、東京に近代港をつくるのは長らく不可能
 関東大震災後、舟運の重要性が認識される
 日の出埠頭A、
 竹芝埠頭B及び芝浦埠頭C 1932-34
 近代東京港の基礎ができた



C: Shibaura 1930's



Container wharf after the end of 60's

埋立地 内部を運河が巡り船で物資を倉庫へ
 内港システムの近代版



東京における物流機能の位置の変遷

A



B



B

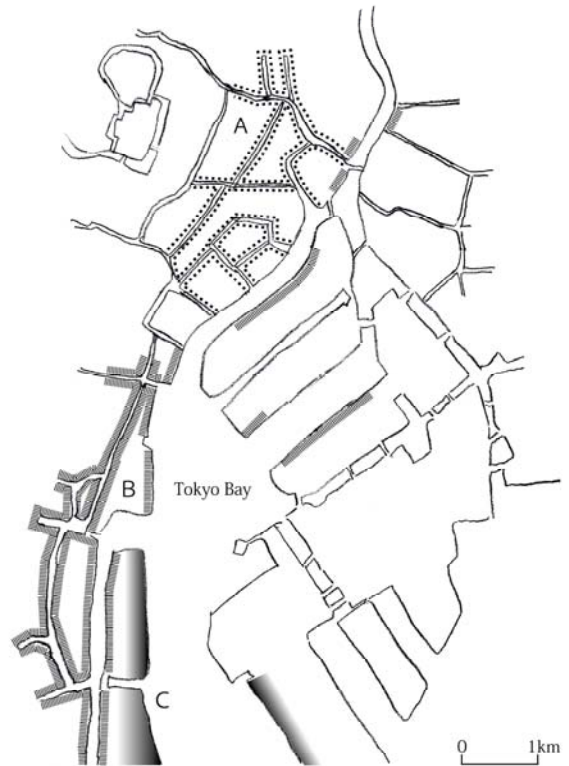
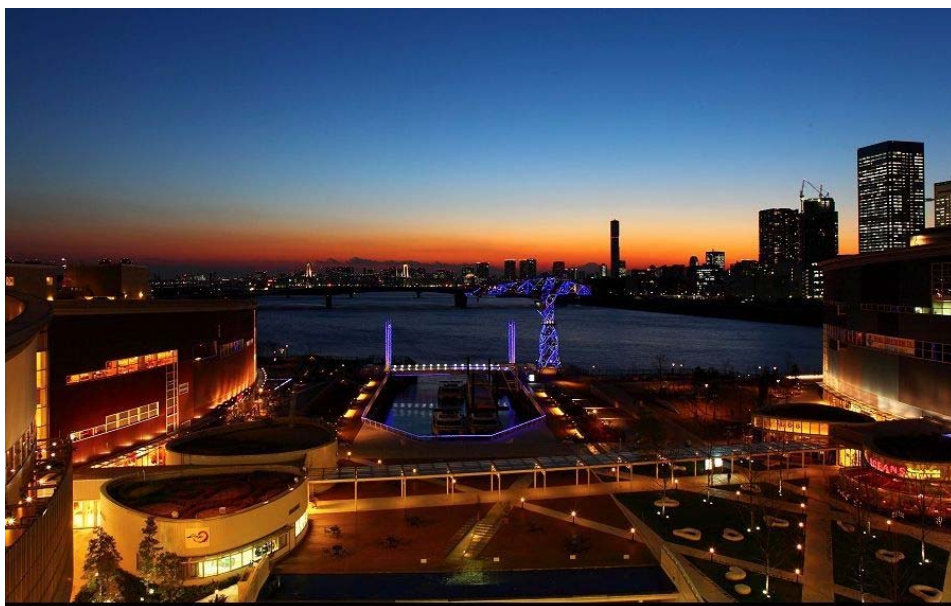


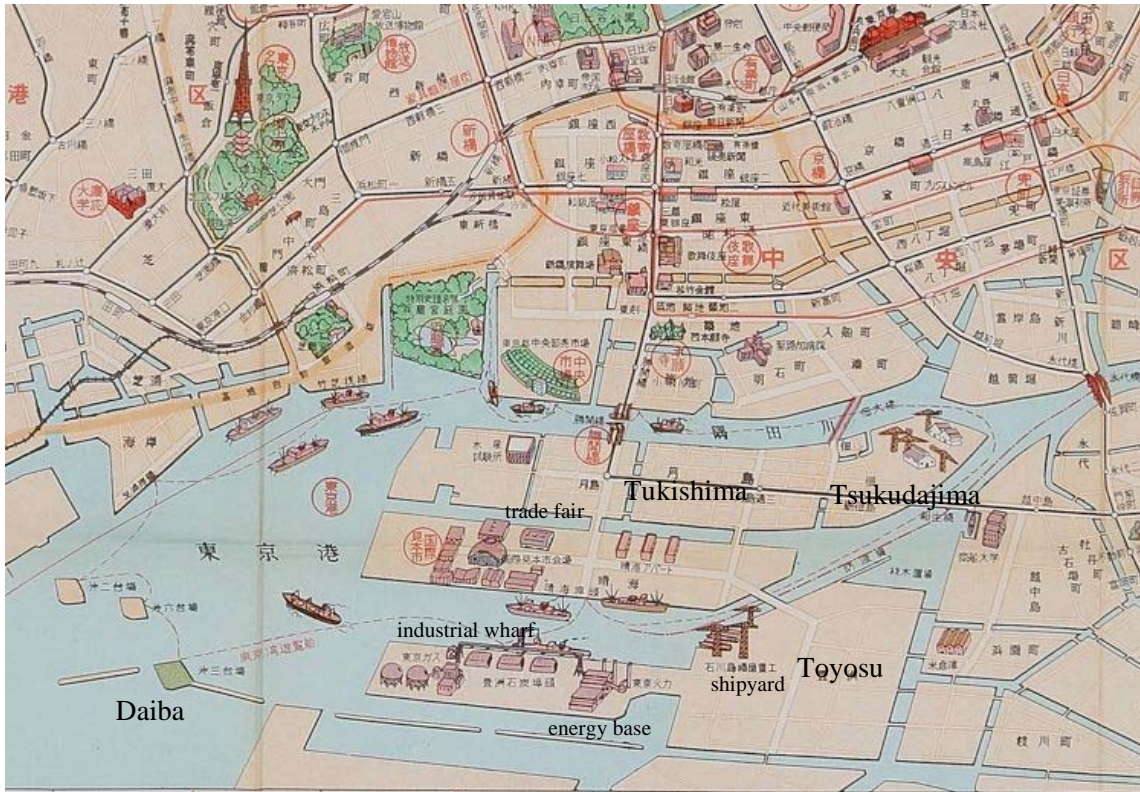
Fig.12 Historical shift of the port functions in Tokyo.
 A : pre-modern era = inner port system
 B : modern era = wharf + warehouse, modern inner port system
 C : today = container wharf

工業化時代にできた埋立地のダイナミックな変化



ララポート豊洲

http://blogs.yahoo.co.jp/kyoku_navi/58688986.html

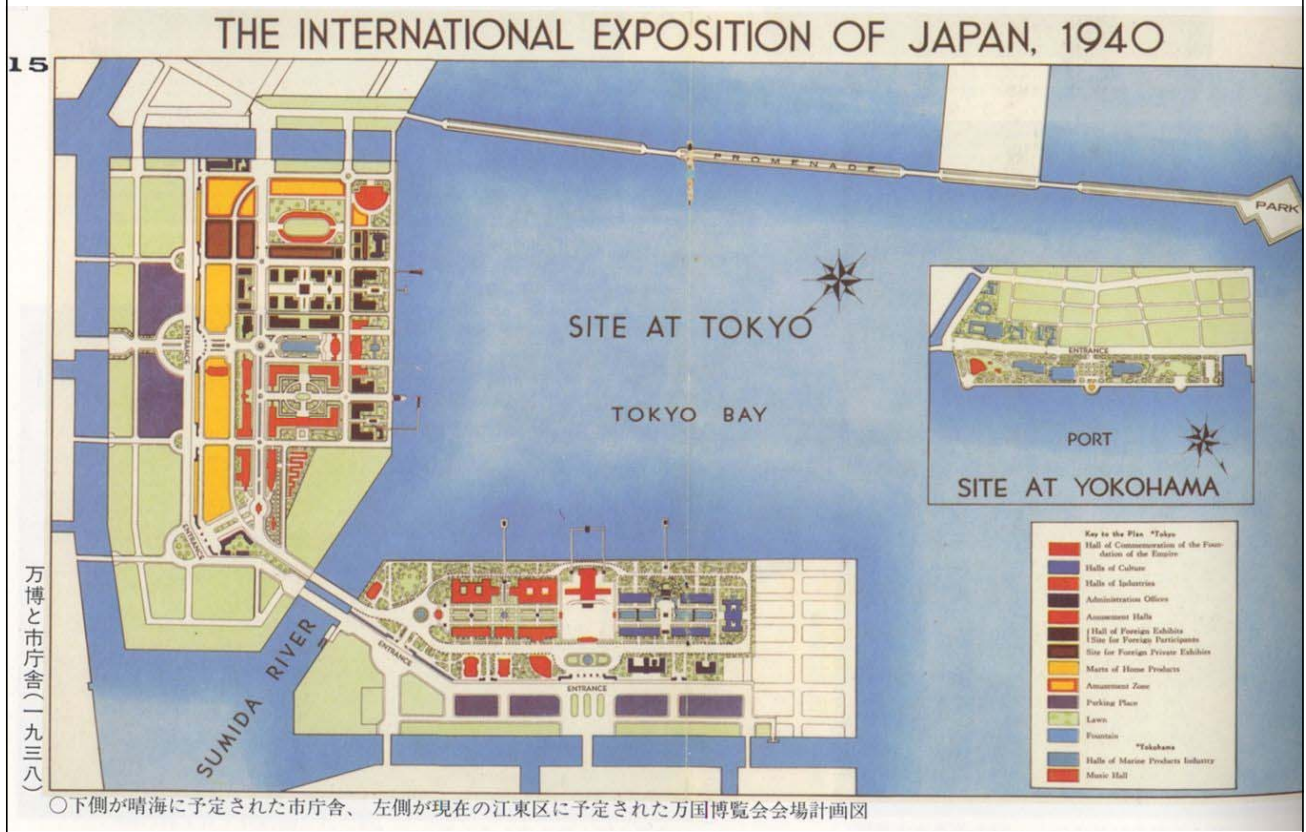


「東京観光案内」 1967 (ZENRIN Virtual Museum)

豊洲 工業埠頭 (石炭, 鉄), エネルギー基地 (ガス, 電力), 造船所

東京湾の夢 Expo of 1940 実現せず

紀元2600年記念 舞台は晴海、豊洲・・・



○下側が晴海に予定された市庁舎、左側が現在の江東区に予定された万国博覧会会場計画図



Tokyo Plan 1960 Kenzo Tange



『豊洲埠頭—きのう・今日・あした』東京都港湾振興協会 豊洲埠頭からIHI造船所を望む
 豊洲石炭埠頭 造船所 1955~1970

today



魚市場
 Green eco island

<http://coolsamurai.com/blog/?p=2183>



<http://bluestyle.livedoor.biz/archives/52127341.html>

アーキペラゴとしての可能性



アーキペラゴ (群島, 多島海)

個性がある島が船で相互に繋がる

人々は、文化的景観のダイナミックな変化を楽しみつつ、新鮮な気分で空間を体験できる。

フェリーのネットワークの創造が重要

自転車の活用も可能性が大きい

歴史地区:台場

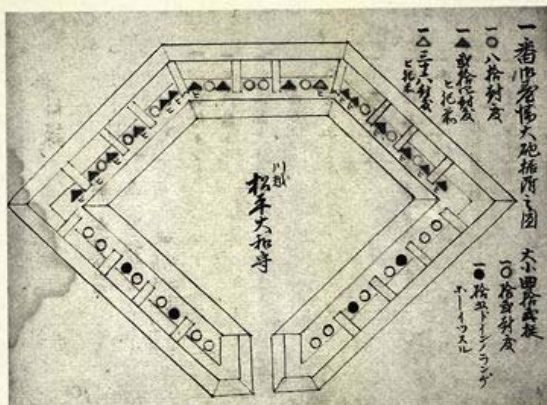


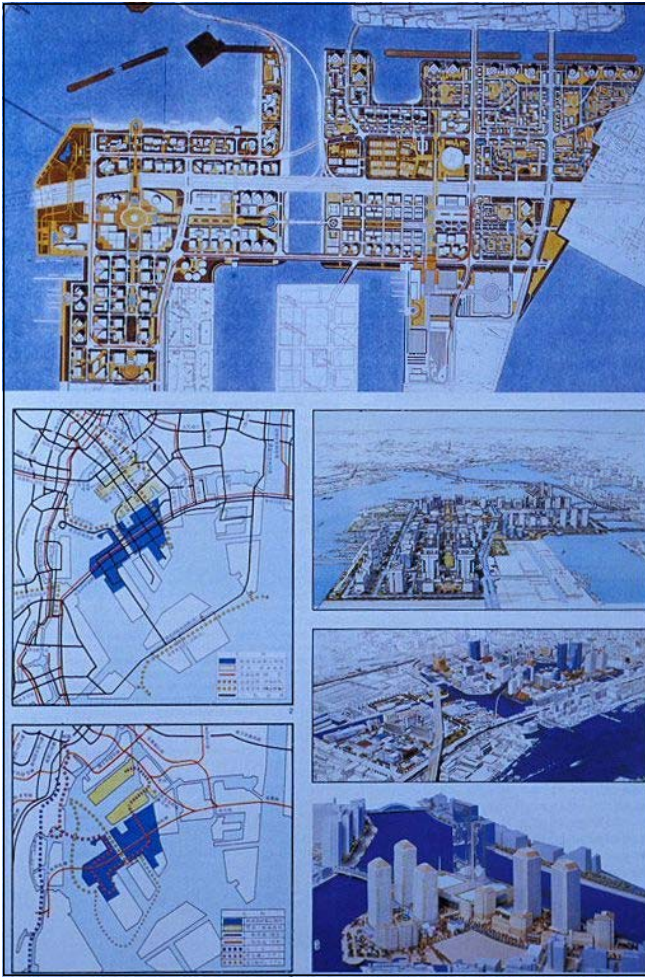
図3 「品川台場大砲据付本座之絵図」(東京大学史料編纂所蔵)1850's



図1 品川御台場配置図

- ①第一台場 品川増地内埋没・上部構造撤去。遺跡包蔵地。部分的に発掘調査実施。基礎構造の残存は良好
- ②第二台場 埋没撤去(昭和36年12月)
- ③第三台場 現存・西指定史跡
- ④第四台場 東品川二丁目埋没。遺跡包蔵地未指定。石垣積み直され、遺構の残存は壊滅的と思われる。
- ⑤第五台場 品川増地内埋没・上部構造撤去。遺跡包蔵地。部分的に発掘調査実施。基礎構造の残存は良好
- ⑥第六台場 現存・国指定史跡。保存状態は危機的状況。
- ⑦第七台場 埋没撤去(昭和40年3月)
- ⑧御台場下台場 東品川一丁目埋没。遺跡包蔵地未指定。全体の2/3近くの遺構は壊滅的と思われる。





東京テレポートタウン計画,1986



1983



today

自然が戻っている.





東京ベイエリア

歴史的、環境的、文化的側面からその可能性、ポテンシャルを再評価すべき



社会実験：船と自転車の組み合わせ

東京湾の様々な利用

出典：昭文社『ことりっぷ東京』